

豊山学報・第66号
弘法大師御生誕千二百五十年
記念特別号抜刷
令和5年3月発行
真言宗豊山派総合研究院

『底哩三昧耶王成就法』校訂テキストと和訳 (3)

横山裕明

『底哩三昧耶王成就法』校訂テキストと和訳 (3)

横山裕明

1. はじめに

本稿は、『豊山学報』第 64 号・第 65 号に掲載した同タイトル (1) と (2)¹ の続編として、『底哩三昧耶王経』(*Trisamayarājatantra*. 以下 TRT) に基づく成就法であるクムダーカラマティ著『底哩三昧耶王成就法』(*Trisamayarājasādhana*. 以下 TRS) の予備的な Skt および Tib の校訂テキストと和訳を提示するものである。今回で TRS の予備的なテキストと和訳の提示については完結となる。

本稿で扱う箇所は、主に行者が昼から夜にかけておこなうべき勤行法則と獲得する悉地に関する内容が説かれている。この勤行法則は、おそらく TRT の冒頭に説かれる勤行法則が成就法用に変化したものと考えられる。TRT と TRS にそれぞれ説示される勤行法則の類似点と相違点については別途成果を公表した。詳細は『密教学研究』第 54 号 (= 横山 2022a) を参照されたい。なお、前稿に続き印契やマントラ等については、本経である TRT よりも、関連儀軌である不空訳『底哩三昧耶不動尊威怒王使者念誦法』一卷 (大正蔵 1200, 以下『念誦法』) と不空訳『底哩三昧耶不動尊聖者念誦秘密法』三卷 (大正蔵 1201, 以下『秘密法』)² との結び付きが見られるため、両儀軌を適宜参照していく。

2. TRS 全体における本稿の位置とマントラ一覧

TRS は内容によって大きく 33 項目に分けることができる。本稿では文献全体を三分割した内の最後の部分となる § 27 から §33 までを提示する。表 1 が TRS の全

体像であり、その中の左側の § に網掛けをした箇所が本稿で扱う範囲である。

表 1.

	概要 (Contents)
§1	【帰敬・吉祥偈】 (Salutation, <i>Maṅgalaślokas</i>)
§2	【擇地】 (Selecting a suitable place for the practice)
§3	【根本明呪・金剛句】 (<i>Mūlavidyā, Vajrapadā</i>)
§4	【如来心呪／百字心呪】 (<i>Tathāgatahṛdaya / Śatākṣaraḥdaya</i>)
§5	【プールヴァセーヴァー】 (<i>Pūrvasevā</i>)
§6	【発菩提心】 (Generating <i>Bodhicitta</i>)
§7	【障礙の破壊】 (Breaking <i>Vighna</i>)
§8	【己身奉獻】 (<i>Ātmaniryātana</i>)
§9	【懺悔】 (<i>Pāpadeśanā</i>)
§10	【隨喜】 (<i>Anumodana</i>)
§11	【印とマントラの三昧耶】 (<i>Samaya of Mudrā and Mantra</i>)
§12	【不動尊への祈願】 (Pray for <i>Acala</i>)
§13	【不動尊の讃嘆】 (Praise for <i>Acala</i>)
§14	【守護尊たちの布置】 (Placement of guardian deities)
§15	【甲冑】 (<i>Kavaca</i>)
§16	【金剛坐】 (<i>Vajrāsana</i>)
§17	【金剛祠】 (<i>Vajramaṅḍapa</i>)
§18	【金剛牆】 (<i>Vajraprākāra</i>)
§19	【金剛網】 (<i>Vajrapañjara</i>)
§20	【金剛火】 (<i>Vajrajvālā</i>)
§21	【結界】 (<i>Simābandhanī</i>)
§22	【獻闕伽】 (Offering <i>Argha</i>)
§23	【五供養】 (<i>Pañcapūjā</i>)
§24	【実体の供養】 (<i>Pūjā on reality</i>)

§25	【観想上の供養】 (<i>Pūjā</i> on imaginary)	
§26	【讃嘆・廻向】 (<i>Saṅgīti, Pariṇāma</i>)	§26-1 【讃嘆】 (<i>Saṅgīti</i>)
		§26-2 【廻向】 (<i>Pariṇāma</i>)
§27	【誦呪】 (Chanting <i>hṛdaya</i>)	
§28	【魔の消除】 (Removal of <i>māra</i>)	
§29	【速疾なる悉地のために】 (<i>Śighrasiddhyartha</i>)	
§30	【諸勤行】 (Activities)	§30-1 【読経】 (Chanting <i>sūtra</i>)
		§30-2 【食事】 (At meals)
		§30-3 【午後】 (At afternoon)
		§30-4 【夜】 (At night)
		§30-5 【徴候の顕現】 (Manifestation of <i>nimitta</i>)
§31	【大いなる徴候】 (<i>Mahānimitta</i>)	
§32	【悉地】 (<i>Siddhi</i>)	
§33	【奥書】 (Colophon)	

次に、TRS 読了の成果の一端として、TRS に説かれるすべてのマントラを一覧(表 2) にして示す。TRS には計 31 のマントラが説かれている。その内ほぼ同様の形のマントラは TRT に 13、関連儀軌に 25 を見出せる³。当然ここには TRT と関連儀軌の両方に見出せるものを含んでおり、いずれにも見出せないマントラは 2 つ (= no. 27, 28) のみである⁴。表 2 は左枠から、TRS の該当する § (§§1-14= 横山 2021、§§15-26= 横山 2022c、§27 以降= 本稿を参照)、マントラの通し番号、マントラの名称、マントラの文句(長文の場合は途中省略)、本経 TRT (D= デルゲ版) における初出箇所、関連儀軌『念誦法』と『秘密法』(共に大正蔵 21 卷所収) におけるそれぞれの初出箇所を表示している。

表 2. ※ 定型句は次の通り省略した：NSBB = namaḥ sarvabuddhabodhisattvānām NSV
 =namaḥ samantavajrāṇām NTS = namas traiyadhvikānām sarvatathāgatānām NTT
 = namas traiyadhvikānām tathāgatānām

§	no.	名称	マントラの文句	TRT (D)	念誦法	秘密法
3	1	根本明呪	NSBB amalā ... sarvadā anantaram.	210r5	×	
	2	金剛句	arara asamasama ... hūṃ phaṭ svāhā.	210r6	×	
4	3	百字心呪	NTT sarvatrā... jvala jvalana sāgare svāhā.	181r6	10a24	20a5
7	4	不動心呪	NSV trāṭ amoghacaṇḍa... hūṃ traṭ hām māṃ.	226v1	10b26	16b25
	5	— (安穩明)	oṃ hara hara mahānimitta hūṃ phaṭ svāhā.	×	7b24	17a8
11	6	三昧耶	namaḥ susiddhe ... mahākṛpebhyaḥ svāhā.	216r3	7b15	17b27
12	7	不動心呪	NSV acala kālacaṇḍa sādahaya hūṃ phaṭ.	×	7c3	18a4
13	8	金剛仏頂	NSBB trīśikhāgri ... trisamaye kuru svāhā.	207r4	×	
14	9	無忍耐	NSV oṃ haṃ hūṃ sphaṭyāsahe hūṃ phaṭ.	×	8a21	17b14
15	10	無能勝金剛	NSV oṃ haṃ hūṃ vajramaye ... hūṃ phaṭ.	×	8a8	17b2
16	11	金剛坐	NSV oṃ haṃ hūṃ vajrāsane vaṃ hūṃ phaṭ.	×	8a27	18b7
17	12	金剛祠	NSV oṃ haṃ hūṃ vajrāgra... maṃ hūṃ phaṭ.	×	8b24	18a20
18	13	金剛牆	NSV oṃ haṃ hūṃ vajramaṇḍale ... hūṃ phaṭ.	×	8b18	18a12

19	14	金剛網	NSV oṃ haṃ hūṃ vajrāgra... muḥ hūṃ phaṭ.	×	8b24	18a20
20	15	金剛火	NSV oṃ haṃ hūṃ vajrajvāle hūṃ phaṭ.	×	8c1	18a28
21	16	結界	NSV oṃ haṃ hūṃ mahāsīmā... hūṃ phaṭ.	×	8a3	17a19
22	17	如来生	NSBB āḥ amalavikrāntatejini araje svāhā.	190r7	8b2	18b16
23	18	塗香	NTS asamagandhottame ...sādhani svāhā.	×	8c19	19a6
	19	華	NTS āvartāvarta mahāpuṣpavati svāhā.	×	9a7	19a17
	20	燒香	NTS agre agrasīkhe dhūmaśīkhe svāhā.	×	9a16	19a12
	21	灯明	NTS jvalante jvalante dipajyotiśīkhe svāhā.	×	9b4	19a27
	22	飲食	NTS arara parara karara ... mahābali svāhā.	×	9a24	19a22
25	23	大明呪女王	NSBB sarvathā udgate ... samantataḥ svāhā.	182v6	9b16	19b3
26	24	” (不動讚)	NSBB sarvatra saṃkusumitā... 'stu te svāhā.	183r1	9b25	19b8
	25	大明呪王	NSBB namo 'stu te ... adhiṣṭhāya svāhā.	183r5	9c12	19b17
27	26	五字心呪	NSBB āḥ vīra hūṃ khaṃ.	218v6	×	×
28	27	普輝頂	āḥ maṃ haṃ		×	
	28	法輪	oṃ dhuna yātayacchinda cakreṇa vajriṇi hūṃ.		×	

29	29	法源	NSBB āḥ sarvathā sarvatrāṇake svāhā.	210v3	10a14	19c8
30	30	- (十力明)	NSBB om balan dade tejomālini svāhā.	183v6	10b19	21a10
	31	光環	NTT mahāsamayagatiṃ ...samgate svāhā.	×	10c9	21a24

3. 胎蔵大日如来の真言に類似する五字心呪について

真言密教の主尊である胎蔵大日如来の真言は a vi ra hūṃ khaṃ (アビラウンキャン)⁵あるいは頭に聖音 om を付けた om a vi ra hūṃ khaṃ というような形で伝承されている。この om という語がなぜ付くかは不明であるが、金剛界大日如来の真言 om vajradhātu vaṃ (オンバザラダトバン) と一組で唱えられるようになってから付加された可能性が考えられる⁶。むしろ、後に示すように『大日経』等の聖典の記述に原形を求めるならば、この真言には元来 om ではなく namaḥ ... という句が付いていた可能性が高い。しかし、この namaḥ 以下の語については文献ごとに多少の相違が見られるという問題があり、それを精査する上で必要な写本・版本間の異読の整理は十分になされていないのが現状である。そのような中、本稿で扱う TRS§27 および本経である TRT には胎蔵大日如来の真言に類似する五字 [心呪] と呼ばれるマントラが説かれている。そこで今後の研究の基礎資料とすべく、胎蔵大日如来真言の典拠と考えられる『大日経』の当該記述を含めた各文献の写本・版本間の異読を整理したい。

まず、胎蔵大日如来真言の典拠と考えられる『大日経』では「悉地出現品」の中に同様の真言が見出せる。この点については先学たちによって繰り返し示されているが、近年急速に閲覧が容易になりつつある Tib 訳の版本・写本類の異読については検証の余地がある。そこで以下では該当箇所を漢訳と共に Tib 訳の複数の版本・写本 (D= デルゲ版、P = 北京版、C= チョーネ版、N= ナルトン版、S= トクパレス版、Ph= プタク写本) を使用して異読を提示する。

- ・『大日経』「悉地出現品」より

大正蔵 18 卷 20a19: 南麼三曼多勃駄喃一阿去急呼味囉咥欠。

D186r3: na maḥ sa ma nta bud dhā nām| a bi ra hūṃ khaṃ||

P150r8: na maḥ sa man ta bu ddha nān| a bi ra hūṃ khaṃ||

C183r7: na maḥ sa man ta bu ddha nān| a bi ra hūṃ khaṃ||

N350v6: na maḥ sa ma nta bud dha nān| ā bi ra hūṃ khaṃ||

S155r1-2: na maḥ sa ma nta bu ddhā nān| ā bi ra hūṃ khaṃ||

Ph51v1: na ma sa man ta bud dha nan| ā bi ra hūṃ khang||⁷

以上のように、マントラの前半部は Skt 還元をする上で問題となるような異読は基本的に⁸見出せないため、namaḥ samantabuddhānām という句であったことは明らかである。しかし、その後の部分、いわゆるアビラウンキヤンのアビの部分には多くの異読が確認できる。そこで、このアビ部分の想定される Skt とその読みを支持する Tib 版本・写本を表に纏めると以下の通りである。

アビ部分の想定される Skt	a vi	a vi	ā vi	ā vi
上記を支持する版本・写本	PC	D	Ph	NS

このように、アビ部分の母音は、短母音と長母音の全ての組み合わせが異読として確認できる。ちなみに不空訳『一字頂輪王経』では「曩謨薩嚩沒駄冒地薩怛嚩合南 阿引尾囉咥欠」(大正蔵 19 卷 209a24-25) という形になっており、Ph と同じ ā vi の読みを支持している⁹。しかし、当然ながら支持する読みが多いから正しい読みであるはずもなく、收拾がつかないのが現状である。ここでは『大日経』の当該部分における Tib の読みがいかに煩雑であるかを示すに留めたい¹⁰。

次に、『大日経』の先駆経典と目されている¹¹ TRT では、ch. 10 の冒頭部において「三世平等性心呪 (dus gsum mnyam pa nyid ces bya ba'i snying po)」¹² という呼称で類似するマントラが説示されている。この呼称の元の Skt は不明であるが、およ

そ tryadhvasamatāhṛdaya- といった形が想定される。以下に TRT の Tib 訳について複数の版本・写本を使用して異読を提示する。

・ TRT ch. 10 より

D218v6: na maḥ sa rba bu ddha bo dhi sa tvā nām| a bī ra hūṃ kham||

P203r8: na maḥ sa rba bud dha bo dhi sa tvā nām| a bi ra hūṃ kham||

C241v5: na maḥ sa rba bu ddha bo dhi sa tva nām| a bī ra hūṃ kham||

N390r6-7: na maḥ sa rbba bu ddha bo dhi sa tvā nām| a bhi ra hūṃ kham||

S387r7: na maḥ sa rbba bu ddha bo dhi sa tvā nām| a bī ra hūṃ kham||

Ph140r3: na ma sa rba bud dha bod dhi sa tva nam| a bi ra hūṃ kham||

以上のように、前半部は Skt 還元をする上で問題となる異読が基本的に¹³ 見出せないため、namaḥ sarvabuddhabodhisattvānām という句であったことは明らかである。すなわち、先ほどの『大日経』における namaḥ samantabuddhānām とは句が異なっている点に注意が必要である。TRT では全体を通じて namaḥ samantabuddhānām という句は見出せず、逆に『大日経』では全体を通じて namaḥ sarvabuddhabodhisattvānām という句は見出せない。このことは両經典の真言の成立を考える上で重要なポイントであろう¹⁴。さて、問題のアビ部分の想定される Skt とその読みを支持する版本・写本を先程と同じ表に纏めると以下の通りである。

アビ部分の想定される Skt	a vi	a vī	ā vi	ā vī
上記を支持する版本・写本	PNPh	DCS	-	-

このように、アに該当する部分は全ての版本・写本が短母音 a の読みを支持しており、長母音 ā の読みも見られた『大日経』とは異なっている。もちろん Tib の音写は極めて不安定であり、扱う版本・写本の数が増えていけば他の読みを支持するものが出てくる可能性も否定できないが、現時点の判断材料に基づけば TRT の当該箇所は短母音 a であった可能性が高い。

さて、以上の点を踏まえた上で、TRT に基づいて作られた成就法である TRS では、同マントラはどのような形であるのか。以下に TRS 該当部分の Skt と Tib を提示する。

・ TRS §27 より

Skt [写本① 5r5、② 4r5、③ 5r5、④ 3v9] :

namaḥ sarvabuddhabodhisattvānāṃ āḥ vī ra hūṃ khaṃ.¹⁵

TibA (= Abhayākara Gupta & tshul khriṃs rgyal mtshan 共訳)

D166v6-7: sangs rgyas dang byang chub sems dpa' rnam thams cad
la phyag 'tshal lo| ā bi ra hūṃ khaṃ||

P205v5-6: sangs rgyas dang byang chub sems dpa' rnam thams cad
la phyag 'tshal lo| āḥ bi ra hūṃ khaṃ||

TibB (= grags pa rgyal mtshan 訳)

D63v6: na maḥ sa rba bu dḥa bo dhi sa tvā nāṃ| āḥ bi ra hūṃ
khaṃ||

P81r5: na maḥ sa rba bud dha bo dhi sa tvā naṃ| aḥ bi ra hūṃ
khaṃ||

このように、TRS における同マントラは大部分が TRT と同じ形であるが、アビラウンキャンのアの部分には TRT にも『大日経』にも無かった āḥ の読みを示している。TibA の D では ā、TibB の P では aḥ という読みになっているが、全ての Skt 写本が āḥ の読みを示しており、TibA も TibB も他方の版は āḥ という読みを示しているため、元の形は āḥ である可能性が高いといえる。この āḥ vī ra hūṃ khaṃ とい

う語は、東インド・オリッサ州¹⁶ ラリタギリ遺跡出土の大日如来像の背面に刻まれた真言¹⁷と同じである。そこで、この大日如来像の背面に刻まれた真言も参考として含めて、各文献の異読の整理から想定される元の Skt を纏めたものが表3である。

表 3.

	前半の句	ア	ビ	ラウンキャン
TRT 『大日経』の 先駆経典?)	namaḥ sarvabuddhabodhisattvānām	a	vi / vī	ra hūṃ khaṃ.
『大日経』 (胎蔵大日如来 真言の典拠?)	namaḥ samantabuddhānām	a / ā	vi / vī	ra hūṃ khaṃ.
TRS (TRTに基づく 成就法)	namaḥ sarvabuddhabodhisattvānām	āḥ	vī	ra hūṃ khaṃ.
ラリタギリの 大日如来像	namaḥ samantabuddhānām	āḥ	vī	ra hūṃ khaṃ.

最後に、今回取り上げたマントラに関する問題点について簡単に触れたい。TRTにおけるマントラは「三世平等性心呪」と呼ばれていたが、この呼称が出てくるのは文献全体を通じて一度きりであり、他の文献の中にも見出せない。このマントラが説示された直後には「六趣を離れることを本性とする五字は、悲を本性とするあらゆるものの父に他ならない」¹⁸と説かれており、おそらくこの一文の「五字 (yi ge lṅga)」の語がTRSにおける呼称に通じるのであろう¹⁹。TRSでは本稿 §27 および §30-3 で示したように五字 (pañcākṣara-) という呼称しか出てこないため、TRTにおける「三世平等性心呪」よりも「五字 [心呪]」という呼称の方が定着したようである²⁰。想像を広げるならば、胎蔵大日如来の真言が namaḥ ... の句を欠く五字 (アピラウンキャン) だけとなった理由には、TRT 以降における五字 [心呪] という呼称の定着が関係するのかもしれない。あるいは、TRT と『大日経』で前半の句が異なることから考えると、先に五字だけのマントラがあって、そこに前半の句が付加された可能性も考えられる。いずれにせよ、現時点でこれ以上考えを巡らせるのは早計であろう。これに類似するマントラは様々な文献の中に見出せる。

例えば、*Guhyasamāja* ch. 16 の āḥ khaṃ vīra hūṃ²¹ や *Kṛṣṇayāmāri* ch. 14 の ā khaṃ vīra hūṃ²²、文殊八大童子の八字真言²³などが挙げられる。今後、扱う文献の範囲を広げて同様のマントラがいかに展開していったかを明らかにしていきたい。

それでは、本題である TRS §27 以降の予備的な校訂テキストと和訳に入る。次節において、まずは凡例を示した上で、校訂テキスト、和訳を順に提示する。

4. TRS 校訂テキストと和訳

4-1. 凡例 (Sigla)

A: Bhattacharyya 1925 が示した A 写本の読みを示す場合に用いる。(It indicates the reading of the Skt MSS “A” based on Bhattacharyya 1925. This MSS is the catalogue no. 74 in Shastri 1917. cf. Bhattacharyya 1925 p. xi, and Shastri 1917 pp. 114-115.)

D: デルゲ版チベット大蔵経 (Derge Edition of the Tibetan Buddhist Canons.)

Ed.: Edition. (=Bhattacharyya 1925)

em.: emendation.

MS(S): Manuscript(s).

N: Bhattacharyya 1925 が示した N 写本の読みを示す場合に用いる。(It indicates the reading of the Skt MSS “N” based on Bhattacharyya 1925. The MSS is the catalogue no. 387 in Shastri 1905. cf. Bhattacharyya 1925 p. xii, and Shastri 1905 pp. 83-84.)

Na: Bhattacharyya 1925 が示した Na 写本の読みを示す場合に用いる。(It indicates the reading of the Skt MSS “Na” based on Bhattacharyya 1925. It is numbered 603 in the Library register of the Nepal Durbar Library. cf. Bhattacharyya 1925 p. xiii.)

no.: numero.

om.: omitted.

Ota.: 大谷目録：大谷大学監修・西藏大蔵経研究会編輯『影印北京版西藏大蔵経—大谷大学図書館蔵—総目録附索引』鈴木学術財団，東京，1962.
(*The Tibetan Tripitaka, Peking Edition kept in the Library of the Otani University, Kyoto: Reprinted under the Supervision of the Otani University of Kyoto: Catalogue & Index*, Suzuki Research Institute, Tokyo, 1962).

P: 北京版チベット大蔵経 (Peking Edition of the Tibetan Buddhist Canons.)

r: recto.

TibA.: translated by Abhayākara Gupta & tshul khri ms rgyal mtshan
[Toh. 3144, Ota. 3965].

TibB.: translated by grags pa rgyal mtshan [Toh.3400, Ota. 4221].

Toh.: 東北目録：東北帝国大学法文学部編『西藏大蔵経総目録東北大学所蔵版』東北帝国大学，仙台，1934. (*A complete Catalogue of the Tibetan Buddhist Canons*, Tohoku Imperial University, Sendai, 1934).

v: verso.

+ : 判読できない文字は1字につき+を1つ示す。(It indicates an unreadable character.)

... : 脚註で本文を挙げる際に、文章の一部を省略する場合は...を付ける。(It indicates a partial omission of the sentence.)

° : 脚註で本文を挙げる際に、熟語の一部を省略する場合は°を付ける。(It indicates a partial omission of the idiom.)

† ... † : どのように読むべきか解決できず、問題のある箇所は†で括る。試訳は暫定的なものを示す。(A part enclosed with daggers which is difficult to figure out.)

〈mantra (no.)〉 : 本文献におけるマントラ・明呪・心呪の通し番号を示す。
(It indicates the number of *mantras*, *vidyās*, *hṛdayas* and *vajrapādas* in the literature.)

〈verse (no.)〉 : 本文献における偈頌の通し番号を示す。(It indicates the number of verses in the literature.)

※以下に該当する場合、校勘欄に表示することなく校訂する。(In this edition, cases of germination, variants of homorganic nasal or *anusvāra*, the non-applications of external sandhi, etc. are silently emended.)

a) r の後が二重子音化している単語の標準化 (standardization)。

e.g.) dharmma → dharma.

b) 二重子音が単子音化している単語の標準化 (standardization)。

e.g.) satva → sattva

c) ñ, ñ̄, ṇ, n, m, ṃ 間あるいは b, v 間、r, l 間、ś, ṣ, s 間での置換。

e.g.) samvara → saṃvara. raukika → laukika.

* 但し、変換前の形が別単語として存在する場合には校勘欄に表示する。

d) avagraha の補填。

e.g.) so pi → so 'pi.

e) キャンセル記号が付いている文字の削除。(To delete characters with a cancel symbol.)

f) comma (,), period (.), daṇḍa (/), shad (|) の補填と削除。

g) Tib 各版で表記方法が異なっている同一単語の表記の統一。

e.g.) pa dma, pa d+ma, pad ma → pa d+ma.

1 4-2. TRS 校訂テキスト

2 §27. 【誦呪】 (Chanting *hṛdaya*)

3 [① 5r3-, ② 4r3-, ③ 5r3-, ④ 3v6-, Ed.=p.9 l.4-]

4 tataḥ sarvabuddhabodhisattvādhiṣṭhānapratilambhārthaṃ tanmudrāṃ baddhvā pūr-

5 voktaṃ śatākṣaram anusmaret. pañcākṣaram¹ vā. hastadvayam anyonyapṛṣṭhasaṃsak-

6 tam² ūrdhvamukhāṅgulikaṃ³ saṃyojya tarjanyau kaniṣṭhike⁴ ca śṛṅkhalākāreṇa⁵

7 madhyamānāmikāsūcyor⁶ madhye⁷ aṅguṣṭhadvayaṃ samam ūrdhvamukhaṃ dhārayet.

8 śatākṣaramudrā⁸. pañcākṣaramudrā tu⁹ samputāñjaliṃ¹⁰ kṛtvā tarjanīdvayenāṅguṣṭhā-

9 gram¹¹ pīḍayet. śeṣās¹² tu tathaiva sūcyākārāḥ¹³. mantrāḥ¹⁴ .

10 namaḥ sarvabuddhabodhisattvānāṃ āḥ vī ra hūm¹⁵ khaṃ. <mantra 26>

11 [TibA; D166v4-, P205v2-]

12 དེ་ནས་སངས་རྒྱས་དང་བྱང་ཆུབ་སེམས་དཔལ་རྣམས་ཐམས་ཅད་ཀྱི་ཕྱིན་ཆུབ་ས་ལྷན་བར་བྱ་བའི་དོན་དུ།

1 pañcākṣaram] ①③④Ed.; pa+yudvaṃ ②
 2 anyonyapṛṣṭhasaṃsaktam] ①②③④; anyonyapṛṣṭhaṃ saṃsaktam Ed.
 3 ūrdhvamukhāṅgulikaṃ] ②③④Ed.; ūrdhvamukhāṅgulika ①
 4 kaniṣṭhike] ①③④Ed.; kaniṣṭhake ②
 5 śṛṅkhalākāreṇa] em.; śaṅkulākāreṇa Ed.; sakalākāreṇa ①③④ANa; saṃkarākāreṇa ②
 6 madhyamānāmikāsūcyor] ②Ed.; madhyamānāmikāsūcyor ①③④
 7 madhye] ①②④Ed.; madhya ③ANa
 8 śatākṣaramudrā] ①②③Ed.; śaktākṣaramudrā ④
 9 tu] Ed.; om. ①③④ANa; stu②
 10 samputāñjaliṃ] ②③④Ed.; sapuṭāñjaliṃ ①ANa
 11 tarjanī°] ①②③④Ed.; tarjanīnā° ANa
 12 śeṣās] ②③④Ed.; śeṣān ①
 13 sūcyākārāḥ] ①③④Ed.; sūryākārāḥ ANa; sūcyākārā ②
 14 mantrāḥ] ①③④Ed.; mantra ②
 15 hūm] ①②③④; huṃ Ed.

12 ཕྱིན་ཆུབ་ས་] D; ཕྱིན་ཆུབ་ས་ P

10 TRT (D218v6, P203r8): དེ་ནས་སངས་རྒྱལ་བའི་སྐུ་ལྷན་ལྷན་གྱི་ཕྱི་དུ་བྱ་བའི་དོན་དུ།
 いわゆる胎藏大日如来の真言アピラウンキャンに類似するこの五字心呪については本稿の
 「3. 胎藏大日如来の真言に類似する五字心呪について」を参照されたい。

1 དེའི་ཕྱག་རྒྱ་བཅིངས་ལ་སྤར་བཤད་པའི་ཡི་གེ་བརྒྱ་པ་དྲན་པར་བྱའོ།། ཡང་ན་ཡི་གེ་ལྟ་པའོ།། ལག་པ་གཉིས་
 2 བན་ཚུན་དུ་རྒྱལ་སླེལ་བས་གཤིབས་པའི་སོར་མོའི་ཙུ་མོ་གྲིན་དུ་བསྟན་ལ་མཛུབ་མོ་གཉིས་དང་མཐེལ་རྒྱུ་རྒྱུ་
 3 གཉིས་ཀྱང་ལྷ་གྲུ་རྒྱུ་དུ་དགོང་ཅིང་གྲུ་མོ་གཉིས་དང་མིན་ལག་དག་ཀྱང་བསྐྱེད་བའི་བར་དུ་མཐེ་བོང་གཉིས་
 4 བཅུག་པ་ལ་གྲིན་དུ་བསྟན་ལ་བརྒྱུད་བ་ནི་ཡི་གེ་བརྒྱ་པའི་ཕྱག་རྒྱའོ།། ཡི་གེ་ལྟ་པའི་ཕྱག་རྒྱ་ཡང་། ཐལ་མོ་
 5 ལ་རྒྱར་དུ་བྱས་ཏེ་མཛུབ་མོ་གཉིས་ཀྱིས་མཐེ་བོང་གཉིས་ཙུ་མོ་ལ་རེག་པར་བྱས་ལ་ལྷག་མ་ནི་དེ་ལོ་ན་
 6 ཉིད་བཞིན་དུ་ལབ་ཀྱི་རྣམ་པར་རོ།། ལྷགས་ནི།

7 སངས་རྒྱས་དང་བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔལ་ཐམས་ཅད་ལ་ཕྱག་འཚུལ་ལོ།། ལྷུང་ལྷི་ར་རྗེ་
 8 ལོ། <mantra26>

9 [TibB; D63v4-, P81r2-]

10 དེ་ནས་སངས་རྒྱས་དང་བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔལ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་ལྷིན་གྱི་རྒྱབས་ཀྱིས་སོ་སོར་ཐོབ་པའི་དོན་དུ་
 11 དེའི་ཕྱག་རྒྱ་བཅིངས་ནས་སློན་དུ་གསུངས་པའི་ཡི་གེ་བརྒྱ་པ་རྟེན་གྱི་དྲན་པར་བྱའོ།། ཡང་ན་ཡི་གེ་ལྟ་པའོ།།
 12 ལག་པ་གཉིས་པན་ཚུན་རྒྱལ་སླེལ་ནས་སོར་མོ་རྣམས་སྟེང་དུ་ལ་རྒྱར་ཏེ། མཛུབ་མོ་དང་། མཐེལ་རྒྱུ་རྒྱུ་དག་
 13 ལྷགས་སློག་གི་རྣམ་པར་བྱས་ནས་གྲུང་མོ་དང་མིང་མེད་དབུས་ལྷ་ཙུ་མོར་བྱས། མཐེབ་ཆེན་གཉིས་མཉམ་དུ་
 14 ཉེད་དུ་ཙུ་མོ་བསྟན་པ་ནི་ཡི་གེ་བརྒྱ་པའི་ཕྱག་རྒྱའོ།། ཡི་གེ་ལྟ་པའི་ཕྱག་རྒྱ་ནི་ཐལ་མོ་ཡང་དག་པར་རྒྱར་
 15 ནས་མཛུབ་མོ་གཉིས་ཀྱིས་མཐེབ་ཆེན་གྱི་ཙུ་མོ་བསྟན་ནས་ལྷག་མ་ནི་དེ་བཞིན་དུ་ཙུ་མོའི་རྣམ་པའོ།།
 16 ལྷགས་ནི།

17 བ་སེམ་མ་མ་བྱ་རྒྱ་མོ་རྗེ་ས་རྗེ་རྗེ། ལྷུང་ལྷི་ར་རྗེ་ལོ།། <mantra 26>

19 §28. 【魔の消除】(Removal of māra)

2 གཤིབས་པའི་ D; བཤིབས་པའི་ P 2 སོར་མོའི་ཙུ་མོ་ D; སོར་མོ་ P 7 ལྷུང་ལྷི་ར་ D 12 མཐེལ་
 རྒྱུ་དག་ D; མཐེ་རྒྱུ་དག་ P 15 གཉིས་ཀྱིས་ D; གཉིས་ཀྱི་ P 17 ལ་རྗེ་རྗེ། D; ལ་རྗེ་རྗེ། P 17 ལྷུང་ལྷི་ར་ D;
 ལྷུང་ལྷི་ར་ P

1 [(① 5r5-, ② 4r5-, ③ 5r5-, ④ 3v9-, Ed.=p.9 l.12-)]

2 tataḥ sarvamudrāsaṅgrahabhūta¹ samantāvabhāsoṣṇīṣam² dharmacakram³ vā⁴ badhnīyāt⁵.

3 prasṛtasamottānobhayapāṇinā⁶ nāmike karamadhye nakhena nakhaṃ paridhāyāṅguṣṭhā-

4 greṇa⁷ nyaset⁸. kanyasau⁹ sūcyākāreṇa saṃhatāgrau¹⁰. tathaiva madhyame

5 samanakhaśikhā¹¹ samantāvabhāsoṣṇīṣam. evaṃ¹² tarjanyau saṃcārya nakhena

6 nakham¹³ ālabheta¹⁴ maṅḍalākāreṇa. dharmacakramudrā. anayor yathākramam^{0.5v1}

7 mantraḥ¹⁵.

8 āḥ maṃ haṃ. <mantra 27>

9 om dhuna yātayacchinda cakreṇa vajriṇi hūm¹⁶. <mantra 28>

1 °saṅgrahabhūtaṃ] ②Ed.; °sagrahabhūta ①③; °saṅgrahabhūta ④ANa

2 °ṣṇīṣam] ①③④Ed.; °ṣṇīṣa ②ANa

3 dharmacakram] ②③Ed.; dharmacakra ①④

4 vā] ②③Ed.; om. ①; vām ④

5 badhnīyāt] ②③④Ed.; badhnīyat ①

6 prasṛtasamottāno°] ①③Ed.; prasṛtamanottāmo° ②; prasṛtasamottātāpe° ④

7 paridhāyāṅguṣṭhāgreṇa] ③Ed.; paridhāyāṅguṣṭhāgreṇau ①②④

8 nyaset] Ed.; yaḡrdau ①; yasrdau ②; praḡrdau ③; grḡdau ④

9 kanyasau] ①②③④Ed.; kampsau ANa

10 saṃhatāgrau] ③Ed.; satāgrau ①; syā; ②; grā ④

11 madhyame samanakhaśikhā] ②; madhyamāsamanakhaśikhā ①③④; madhyame

samanakhaśikhā saṃsakte madhyapradeśinyau sūcyākāreṇa Ed.; madhyamāme-

samanakhaśikhā ANa

12 evaṃ] Ed.; ta eva ①④; te eṣva ②; te eva ③

13 nakhena nakam] ①②③④Ed.; nanakhaṃ ANa

14 ālabheta] ②③Ed.; ārabheta ①; ālabhet ④

15 mantraḥ] ③④Ed.; mantra ①②

16 hūm] ①②③④; huṃ Ed.

3 MMK p. 412 ll. 9-13: prasṛtasamohānobhayapāṇinā jihvā ānāmikāṅgulyau karamadhye nakhe nakhaṃ paridhāya aṅguṣṭhāgreṇopagūdhāḥ kanyasau sūcyākāreṇa saṃhatāgrā tathaiva madhyamā samanakhaśikhāsamsaktamadhyagau pradeśinyau sūcyākārasamantāvabhāsoṣṇīṣamahālākṣaṇam nāma mahāmudrā.

5 MMK p. 412 ll. 13-15: tadeva pradeśinyau saṃcārya nakhena nakhamālabhet. maṅḍalākārasūcyābhīḥ kudṛṣṭīśalyaviparyāsadhanaṃ nāma mahādharmacakramudrā.

8 MMK p. 412 l. 13: āḥ maḥ haṃ.

9 『初会金剛頂経』 §1413: om vajraheme chinda cakreṇa vajriṇi hūm phaṭ.

MMK p. 412 ll. 15-16: om dhuna pātaya chinda cakre vajriṇi hūm.

1 anayor anyatarām¹ baddhvā mantram sakṛd uccārya sthito niṣaṅgo vā japet. mārādib-
Ed. p.10

2 hir nābhibhūyate, siddhiś cāsyābhimukhībhavati.
④4r1

3 [TibA; D166v7-, P205v6-]

4 དེ རྟེན་ བྱུག་ རྒྱ་ བཅས་ ཅད་ ཡང་ དག་ པར་ ལྷུང་ པར་ ལྷུང་ པ་ གཏུན་ ཏུ་ ལྷུང་ བར་ བྱེད་ པ་ གཅུག་ ཉོར་ གྱི་ བྱུག་
5 རྒྱལ་ རྒྱལ་ གྱི་ འཕོར་ འཕོར་ བཅིང་ བར་ བྱེད་། ལག་ པ་ གཉིས་ མཉམ་ པོར་ བཀའ་ རྣམ་ བརྒྱུད་ ལ་། སྲིན་ ལག་
6 དང་ མཚུབ་ མོ་ ལག་ པའི་ རྣང་ ཏུ་ སེན་ མོས་ སེན་ མོ་ གཏུགས་ པ་ ལ་ མཐེ་ བོང་ གི་ ཚུ་ མོ་ དགུག་ བོ། མཐེའུ་ རྒྱུང་
7 རྟེ་ ཚུ་ ལྷུང་ ལ་ ལྷུང་ ཉེ་ བརྒྱུད་ རོ། གུང་ མོ་ རྟེ་ རྟེ་ རྟེ་ ལྷུང་ སེན་ མོའི་ ཚུ་ མོ་ མཉམ་ པོར་ ལྷུང་ རོ། གཏུན་ ཏུ་ ལྷུང་
8 བར་ བྱེད་ པ་ གཅུག་ ཉོར་ གྱི་ བྱུག་ རྒྱེད་། དེ་ ཉིད་ ལ་ མཚུབ་ མོ་ བཤུགས་ ལ་ སེན་ མོས་ སེན་ མོ་ ལ་ རྒྱུང་ མ་ རེག་
9 པའི་ མཉམ་ ལ་ གྱི་ རྣམ་ པ་ རྟེ། རྒྱལ་ གྱི་ འཕོར་ འཕོར་ བྱུག་ རྒྱེད་། རིམ་ པ་ རི་ ལྷ་ བ་ བཞིན་ ཏུ་ འདི་ དག་ གཉིས་ གྱི་
P206r
10 ལྷུགས་ རྟེ།

11 ལྷུང་ མི་ ཉི། <mantra 27>

12 ལྷོ་ རྒྱ་ རྣ་ པ་ ཉ་ ལ་ རྒྱ་ རྣ་ ཉ་ ཅེ་ གེ་ རྒྱ་ རྒྱ་ རྒྱ། <mantra 28>

13 འདི་ དག་ གཉིས་ གང་ ཡང་ རྒྱུང་ བ་ བཅིངས་ ལ་ ལྷུགས་ ལམ། ཅིག་ བརྗོད་ ལ་ འགྲོ་ བའམ་ འདུག་ པས་ གུང་ བརྒྱས་
14 པར་ བྱ་ རྟེ། བདུད་ ལ་ མོགས་ པས་ ཟིལ་ གྱིས་ རོན་ པར་ མི་ འལྷུར་ རོ། དཔོན་ ལྷུང་ རྣམས་ གུང་ འདི་ ལ་ མཚོན་ ལུམ་
15 ཏུ་ འལྷུར་ རོ།

16 [TibB; D63v6-, P81r5-]

17 དེ་ རྣམ་ བྱུག་ རྒྱ་ བཅས་ ཅད་ ཡང་ དག་ པར་ བལྷུས་ པ་ ལས་ ལྷུང་ བ་ གཏུན་ གྱི་ གཅུག་ ཉོར་ ལྷུང་ བ་ རྒྱལ་ གྱི་ བྱུག་ རྒྱ་
18 བཅིང་ བར་ བྱ་ རྟེ། ལག་ པ་ གཉིས་ རྒྱལ་ ཏུ་ མཉམ་ ཏུ་ བརྒྱུད་ རྣམ་ མི་ འཛིགས་ པའི་ ལག་ པས་ མིང་ མེད་ ལག་ པའི་
19 དཀྱིལ་ དང་ མཐེབ་ རྒྱེད་ གྱི་ ཚུ་ མོར་ སེན་ མོས་ སེན་ མོ་ ཡོངས་ ལུ་ བརྒྱུད་ རྟེ་ མཐེབ་ རྒྱུང་ ཚུ་ ཚུ་ མོའི་ རྣམ་ པར་ བྱས་

¹ anyatarām] ②③④Ed.; anyatarā ①

4 གཅུག་ ཉོར་] D; གཅུག་ གཉོར་ P 9 རེག་ པའི་] D; རེག་ པར་ P 12 བརྗོད་ རྒྱ་] D; བརྗོད་ རྒྱ་ P 18 མིང་ མེད་ ལག་
པའི་] D; om. P 19 སེན་ མོས་ སེན་ མོ་] D; སེན་ མོ་ P

1 ཏེ། ཚེགས་ གྱི་ ཚེ་ མོ་ དེ་ བཞིན་ དུ་ བྱང་ མོ་ དང་ མཉམ་ དུ་ མེན་ མོའི་ ཚེ་ མོར་ བྱས་ པ་ ནི་ གཞུག་ ཏོར་ ཀྱན་ དུ་ ལྷང་
 2 བའོ།། དེ་ བཞིན་ དུ་ དེ་ རྣམས་ གྱི་ མཚུབ་ མོ་ དག་ བཀའ་ རྣམ་ མེན་ མོའི་ ཚེ་ མོ་ ལ་ ལྷར་ ཏེ། མཚུལ་ གྱི་ རྣམ་ པ་ ནི་
 D64r
 3 ཚེས་ གྱི་ འཁོར་ ལོའི་ རྒྱག་ རྒྱལོ།། ལྷགས་ འདི་ དག་ བོ་ རིམས་ ཇི་ ལྟ་ པ་ བཞིན་ དུའོ།།

4 ལྷོ་ སྤྱི་ ཉི།། <mantra 27>

5 ལོ་ ལྷུ་ ན་ ལ་ ཏ་ ཡུལ་ ཚ་ གེ་ ན་ བཛི་ ཉི་ ལྷི།། <mantra 28>

6 འདི་ དག་ གིས་ ལྷགས་ གཞན་ ཡང་ བཅིངས་ རྣམ་ ལན་ ཅིག་ བཟོད་ དེ། གནས་ མིང་ འདུག་ རྣམ་ བཟུང་ པར་ བྱའོ།།

7 བདུད་ ལ་ སོགས་ པ་ རྣམས་ ཟེལ་ གྱིས་ གཞོན་ ཅིང། དེས་ ལྷུབ་ རྣམས་ མཛོན་ དུ་ བྱེད་ པར་ འཇུག་ འོ།།
 P81v

8

9 §29. 【速疾な悉地のために】 (*Śiḅhrasiddhyartha*)

10 [① 5v2-, ② 4r8-, ③ 5v2-, ④ 4r1-, Ed.=p.10 l.2-]

11 tataḥ śiḅhrasiddhyarthaṃ¹ dharmodayamudrāṃ baddhvā tanmantram anusmaret.
 12 vāmahastena muṣṭiṃ baddhvā tarjanī kaniṣṭhāṅguṣṭhau² ca prasārayed ūrdhvaṃ.
 13 dharmodayamudrā. mantraḥ³.

14 namaḥ sarvabuddhabodhisattvānāṃ āḥ sarvathā sarvatrāṇake svāhā.

15 <mantra 29>

¹ °arthaṃ] ②③④; °artha ①; °arthaṃ tāvad Ed.

² tarjanīkani°] ①②④Ed.; tarjanīṃ kani° ③

³ mantraḥ] ①③④Ed.; mantra ②

2 མེན་ མོའི་ ཚེ་ མོ་] D; མན་ མོ་ P 3 ཇི་ ལྟ་ པ་ བཞིན་ དུའོ།། D; ཇི་ ལྟ་ པ་ བཞིན་ དུ་ P 4 ལྷོ་ སྤྱི་] D; ལྷོ་ སྤྱི་ P
 6 རྣམ་ ལན་ ཅིག་ བཟོད་ དེ།] D; རྣམ་ ལན་ ཅིག་ བཟོད་ རྣམ་ P 7 རྣམས་ ཟེལ་ གྱིས་ གཞོན་ ཅིང།] D; རྣམས་ གྱིས་ ཟེལ་ གྱིས་ མི་
 རོན་ ཅིང་ P

14 TRT (D210v3, P195r6): ན་ མཉམ་ ས་ བ་ ལུ་ དྲེད་ ལོ་ རྣེ་ ས་ ལྷུ་ ལྷི།། ལ་ ས་ བ་ ལུ་ ས་ བ་ ཨ་ (ཨ)D; ལྷུ་ P ཇི་ ལྷུ་ ལྷི།།
 『念誦法』 21卷10a14-15: 曩莫薩嚩駄馱胃地薩怛嚩二合南阿引薩嚩他薩嚩怛囉二合路計娑嚩二合引訶引
 『秘密法』 21卷19c8-9: 曩麼薩嚩母馱馱胃地薩怛嚩嚩阿薩羅嚩他薩羅嚩多囉路計沙嚩二合訶

1 svamudrayā ca mantram¹ sakṛd uccārya samayaṃ darśayet. svamudrā tu yathāyo-
②4v1
 2 gaṃ veditavyā².
 3 tataḥ sarvabuddhabodhisattvaprāṇāmāmbanajāpam abhyasan³ yathābhilaṣitam mantram
 4 na drutaṃ na vilambitaṃ asatsaṃkalpavarjitaṃ mantrākṣaragatacittaṃ⁴ tāvaj japed
 5 yāvan na khedo bhavati.

6 [TibA; D167r3-, P206r2-]

7 ལྷུར་ དུ་ འབྲུག་ པར་ བྱ་ བའི་ རོན་ དུ་ དེ་ རྣམ་ ཚོས་ འབྲུང་ གི་ ཕྱག་ རྒྱ་ བཅིངས་ ལ་ དེའི་ ལྷགས་ བརྗོད་ པར་ བྱའོ།།
 8 ལག་ པ་ གཤམ་ པ་ ལུ་ རྩེ་ བཅངས་ ལ་ མཚུབ་ མོ་ དང་ མཐེན་ རྩེ་ དང་ མཐེ་ བོ་ རྣམས་ ལྷོན་ དུ་ བརྒྱང་ བར་ བྱ་
 9 བ་ རི་ ཚོས་ འབྲུང་ གི་ ཕྱག་ རྒྱའོ།། ལྷགས་ རི།

10 སངས་ རྒྱས་ དང་ བྱང་ རྩེ་ སེམས་ དཔལ་ ཐམས་ ཅད་ ལ་ ཕྱག་ འཚལ་ འོ།། ལྷུ་ ས་ ར་ བ་ ལྷ་ སར་

11 བ་ ཅ་ ས་ ཀེ་ ལྷ་ ལྷོ། <mantra 29>

12 རང་ གི་ ཕྱག་ རྒྱ་ དང་ ལྷགས་ ལྱང་ ལན་ ཅིག་ བརྗོད་ པས་ དམ་ ཚོག་ བརྗོད་ པར་ བྱའོ།། རང་ གི་ ཕྱག་ རྒྱ་ རྣམས་ ལྱང་
 13 ཅི་ རིགས་ པར་ རིག་ པར་ བྱའོ།།

14 དེ་ རྣམ་ སངས་ རྒྱས་ དང་ བྱང་ རྩེ་ སེམས་ དཔལ་ ཐམས་ ཅད་ ལ་ ཡན་ ལག་ ལྷས་ ཕྱག་ འཚལ་ བར་ དམིགས་ ཤིང་
 15 བརྒྱས་ པ་ གོམས་ པས་ ཇི་ ལྷར་ མཛོན་ པར་ འདོད་ པའི་ ལྷགས་ རྣམས་ ལྷུར་ བར་ མ་ ཡིན་ བུལ་ བར་ མ་ ཡིན་ པའི་
 16 རྩོག་ པ་ སྤངས་ ལ་ ལྷགས་ ལྷི་ ཡི་ བེ་ རིག་ པའི་ སེམས་ ལྷིས་ ཇི་ སྤིད་ དུ་ རྩོད་ བར་ མ་ ལྷར་ པ་ དེ་ སྤིད་ དུ་ བརྒྱས་ པར་
 17 བྱའོ།།

18 [TibB; D64r2-, P81v1-]

¹ mantram] ①③④Ed.; mantra ②ANa
² veditavyā] ①③④Ed.; vaditavyā ②ANa
³ abhyasan] ①②③④Ed.; abhyasyan N
⁴ °ragatacittaṃ] ①③④Ed.; °ram ekacittaṃ ②; °ragatañ cittaḥ ANa

8 མཐེན་ རྩེ་] D; མཐེ་ རྩེ་ P 15 གོམས་ པས་] D; གོམ་ པས་ P

1 རེ་ནས་ དངོས་ གྲུབ་ ལྷུང་ པའི་ རོན་ ཏུ་ ཚོས་ འབྱུང་ གི་ ཕྱག་ རྒྱས་ བཅིངས་ ནས་ དེའི་ ལྷགས་ ཇིས་ ལྷ་ དན་ པར་ བྱའོ།།
 2 ལག་ པ་ གཡོན་ པས་ ལུ་ རྩེད་ བཅངས་ ནས་ མཚུབ་ མོ་ དང་ མཐེན་ རྩུང་ རྩེད་ ཏུ་ བརྒྱུང་ བ་ རི་ ཚོས་ འབྱུང་ གི་ ཕྱག་
 3 རྒྱའོ།། ལྷགས་ རི།

4 ན་ མེ་ སམ་ བྱ་ རྩུ་ བོ་ རྩི་ སཏུ་ རྩྱི་ ལེ་ སམ་ བྱ་ སམ་ བྱེན་ ཀེ་ ལྷ་ ཏུ།། <mantra 29>

5 རང་ གི་ ཕྱག་ རྒྱས་ ལྱང་ ལྷགས་ ལན་ ཅིག་ བརྗོད་ ནས་ དམ་ ཚོག་ བལྟ་ བར་ བྱའོ།། རང་ གི་ ཕྱག་ རྒྱས་ ཇི་ ལྷར་ ལྷུང་
 6 བར་ རིག་ པར་ བྱའོ།།

7 དེ་ ནས་ མངས་ རྒྱས་ དང་། བྱང་ རྩུབ་ སེམས་ དཔའ་ གམས་ ཅད་ ལ་ ཕྱག་ འཚོལ་ བར་ དམིགས་ ནས་ བརླས་ པ་ བརྩམ་
 8 པར་ བྱ་ ལྷེ། ཇི་ ལྷར་ འདོད་ པ་ བཞིན་ རོ།། ལྷགས་ ལྷུང་ བ་ དང་། ལུལ་ བ་ དང་། མི་ བདེན་ པའི་ རྩོག་ པ་ ལྷངས་ ནས།
 9 ལྷགས་ ལྱི་ ཡི་ གེ་ ལ་ སེམས་ ཇི་ སྲིད་ དལ་ བར་ མ་ ལྷུང་ པ་ དེ་ སྲིད་ ཏུ་ བརླས་ པར་ བྱའོ།།

10

11 §30. 【諸勤行】 (Activities)

12 [① 5v4-, ② 4v2-, ③ 5v4-, ④ 4r4-, Ed.=p.10 l.10-]

13 §30-1. 【誦經】 (Chanting *sūtra*)

14 tata utthāyāryagaṇḍavyūhādisūtrāṇi¹ tathāgatahṛdayaṃ sakṛd anusmṛtya vācayet.

15 pūjayitvā antataḥ praṇamya² vā bhuñjīta³.

16 §30-2. 【食事】 (At meals)

17 bhuñjatā cānena⁴ mantreṇāhāraṃ aṣṭavārān abhimantritaṃ kṛtvā⁵ agrapiṇḍaṃ⁶

¹ utthāyārya°] ①②③④Ed.; utthāyāryam ° ANa

² praṇamya] ①③④Ed.; pranya ②

³ bhuñjīta] Ed.; bhuñjīt ①③; bhuñjāta ④; ++++++ ②

⁴ bhuñjatā cānena] ①③④Ed.; +++++nena ②

⁵ kṛtvā] ②④Ed.; kṛtvām ①③

⁶ agrapiṇḍaṃ] ①③④Ed.; ayapiṇḍaṃ ②; agram piṇḍaṃ ANa

2 མཐེན་ རྩུང་། D; མཐེ་ རྩུང་ P 4 སམ་ བྱ་ རྩུ་ བོ་ རྩི་ སཏུ་ རྩྱི་ ལེ་ སམ་ བྱ་ སམ་ བྱེན་ ཀེ་ ལྷ་ ཏུ།། D; སམ་ བྱ་ རྩྱི་ ལེ་ སམ་ བྱ་ ཏུ།། P 9 ཇི་ ལྷིད་ དལ་ བར་ བྱའོ།། D; ཇི་ ལྷིད་ བར་ P

- 1 sarvabuddhabodhisattvebhyo nivedya madhyamātrayā bhoktavyam¹. tatrāyaṃ mantraḥ².
- 2 namaḥ³ sarvabuddhabodhisattvānām oṃ balan⁴ dade tejomālini svāhā.
- 3 <mantra 30>
- 4 bhuktaśeṣāny āryācalāyāmoghacaṇḍahṛdayena⁵ sakṛd⁶ abhimantryotsrṣṭapañḍo dā-
- 5 tavyaḥ⁷. sa tatrānubandhaḥ⁸ sukhasiddhitām dadāti. bhuktaviśrāntāś ca pāpadeśanādikam
^{③6r1}
- 6 kṛtvā saddharmārāma eva tiṣṭhet.
^{①6r1}
- 7 §30-3. 【午後】 (At afternoon)
- 8 yadi śakto⁹ bhavati, aparāhṇe¹⁰ 'pi sarvam etaṃ¹¹ rakṣādiparikaram¹² pūjādikañ ca
- 9 kṛtvā japet, no cet pūrvāḥnakṛtam¹³ eva rakṣādi avisarjitam sthitam eva¹⁴ dṛḍham
^{Ed. p.11}
- 10 adhimucyāryācalavajramudrayā¹⁵ samantrayā¹⁶ vighnān utsārya pañcākṣarārdīnām

1 bhoktavyam 〕 ②③④Ed.; bhoktavya ①

2 mantraḥ 〕 ①③④Ed.; mantra ②

3 namaḥ 〕 ②③④Ed.; nama ①

4 balan 〕 ②③④Ed.; baliṃ Tib; baran ①

5 bhuktaśeṣāny āryācalāyāmoghacaṇḍahṛdayena 〕 ①③④; bhuktaśeṣāni āryācaloyāmogha-
caṇḍahṛdayena ma ②; bhuktaśeṣād vāryācalāyāmoghacaṇḍahṛdayena Ed.

6 sakṛd 〕 ①③④Ed.; saṃkṛd ②

7 dātavyaḥ 〕 ②④Ed.; dātavyāḥ ①③

8 tatrānubandhaḥ 〕 ①②③④Ed.; tatānubaddha N

9 yadi śakto 〕 Ed.; yadi sakti ①②③④; avisakto ANa

10 aparāhṇe 〕 ①③④Ed.; aparāḥṇa ②

11 etaṃ 〕 ①②③④; etat Ed.

12 rakṣādiparikaram 〕 ①②③④Ed.; rajñāvīparikaram ANa

13 pūrvāḥnakṛtam 〕 ②③④Ed.; pūrvāḥakṛtam ①

14 sthitam eva 〕 ②Ed.; sthitanova ①③④ANa

15 vajramudrayā 〕 ②④Ed.; vajram mudrayā ①③

16 samantrayā 〕 ①③④Ed.; samantayā ②

2 TRT (D183v6, P169r3): ན་སེ་མ་བོ་ལ་བློ་ཚུལ་། D; ནེ་ཕྱི་སྤུ་མོ་ལ་ལོ་རྒྱུ་ཏེ་(བ་ལོ་རྒྱུ་། D; བ་ལིན་ཏེ་P) ཏེ་ཚུ་ལྡེ་ལྡེ་ནི་(ལྡེ་ལྡེ་ནི་། D; མ་ལི་ནི་P) ལྡེ་ལྡེ།

『念誦法』21卷10b19-20: 囊麼薩囉沒駄胃地薩但喇二合南引唵喇引藍娜泥帝儒莽利爾娑囉二合引訶

『秘密法』21卷21a10-11: 囊麼薩囉母駄胃地薩但喇二合唵唵麼蘭捺泥帝引孺唵寧莎縛二合訶

Ādikarmapradīpa p.151 ll.16-17: namaḥ sarvabuddhabodhisattvānām. oṃ balan dade tejomālini svāhā.

1 anyatamena¹ mudrāsahitena rakṣām kṛtvā pūjāstutyādikaṃ vidhāya pūrvavaj jā-
 2 paṃ² kuryāt. vikāle³ ca prākārapañjarādikaṃ visarjya⁴ raśmimālinīyā kavacaṃ
 3 kuryāt. anyonyāṅguliśliṣṭām abhyantaramuṣṭiṃ kṛtvā madhyame sūcyākāreṇa prasārayet.
 4 tarjanīyugalaṃ tasyāśṛṭīyaparve⁵ nyaset⁶. aṅguṣṭhau ca pārśvataḥ. raśmimālinī-
 5 mudrā⁷. mantrah⁸.

6 namas traiyadhvikānām tathāgatānām mahāsamayagatiṃ gate samate
 7 samate⁹ sarvathā sattvatrāṇake¹⁰ dharmadhātuvabhyantarasaṃgate¹¹ svāhā.
 8 <mantra 31>

9 §30-4. 【夜】 (At night)

10 pūrvarātrāpararātrajāgarikā¹² ca saddharmasvādhyāyādīnā kartavyā. madhyame
 11 yāme mañcakarahitāyām¹³ śayyāyām¹⁴ sarvabuddhabodhisattvān sarvāṅgataḥ praṇa-
 12 mann eva svapet¹⁵. vijñaptiṃ ca kuryāt. adhiṣṭhantu māṃ sarvabuddhabodhisattvā
 ④4vi

1 pañcākṣarādīnām anyatamena] Ed.; pañcākṣarādīnām manyetamena ①②③④

2 jāpaṃ] ①③④Ed.; japaṃ ②

3 vikāle] ②③④Ed.; vikāre ①

4 visarjya] ②③④Ed.; vīsarjya ①

5 tasyāśṛṭīyaparve] ②④Ed.; bhūmyāśṛṭīyaparve ①③ANa

6 nyaset] ①③④Ed.; nyasyet ②

7 raśmimālinīmudrā] ①③④Ed.; raśmimālinīm mudrā ②

8 mantrah] ①③④Ed.; mantra ②

9 samate] ①; sama ②③④Ed.

10 sattvatrāṇake] ①②③④Ed.; sattvatrāṇaka ANa

11 °abhyantarasaṅgate] Ed.; °abhyantāsaṅgate ①②③④

12 °garikā] ①③④Ed.; °sarikā ②

13 mañcakara°] ①③④Ed.; mañcakayāra° ②

14 śayyāyām] ①③④Ed.; sayyāyām ②

15 praṇamann eva svapet] ①②④Ed.; praṇamann eva svapet ③; praṇamet na ca bhayet ANa

6 『念誦法』21卷10c9-12: 曩麼悉底哩二合野娜嚩二合努設多南薩嚩怛他引多南摩賀三麼引野帝
 三麼囉二合麼麼他囉二合麼但囉路計計達麼馱嚩二合店多僧伽諦娑嚩二合引訶

『秘密法』21卷21a24-27: 曩麼悉底哩也四合陀嚩二合拏伽哆喃薩嚩怛他薩哆喃摩訶三昧耶伽底伽帝三曼帝
 三摩藥羅嚩二合摩他薩羅婆多羅二合路計達麼馱墀底多僧伽帝莎嚩二合訶

10 *Ādikarmapradīpa*. Takahashi 1993 p. 152. ll. 22-23.: saddharmasvādhyāyādīnā
 pūrvarātrajāgarikā kartavyā.

1 anuttarasiddhivaradāyākās¹ ca bhavantu sarvopadravāms² ca praśamayantv iti³.
②5r1
2 §30-5. 【微候の顕現】 (Manifestation of *nimitta*)
3 ayam eva ca vidhiḥ pratyahaṃ⁴ yāvat paurṇamāsyāṃ lakṣajāpo⁵ vā. yāvad vā
4 siddhinimittāni prādur bhavanti⁶. tataḥ paurṇamāsyāditi⁷ kṛtabhaktacchedo-
5 pavāsah pośadhasamvarī⁸ pallavopaviṣṭah⁹ kuśaṅḍikopaviṣṭo¹⁰ vā caityapaṭapaṭa-
①6v1 ③6v1
6 pustakapratimādinām¹¹ anyatamasyāgrataḥ kṛtakusumāvakīrṇamaṅḍalakah¹² kṛ-
7 tarakṣāpūjādirikarahaḥ pūrvavad dharmodayamudrām¹³ baddhvā tanmantram anus-
Ed. p.12
8 maret. tataḥ svadevatāmudrām baddhvā tanmantram saptāṣṭavārān¹⁴ uccārya samayaṃ
9 darśayet.
10 [TibA; D167r6-, P206r7-]

11 §30-1. 【誦經】 (Chanting *sūtra*)

12 དེ་ནས་ ལངས་ ཉེ་ དེ་ བཞིན་ གཤེགས་ པའི་ ལྷིང་ སོ་ ལན་ ཅིག་ བརྗོད་ ལ་ འཕགས་ པ་ ལྷོང་ སོ་ བཀོད་ པ་ ལ་ རོགས་
13 པའི་ མདོ་ དག་ གདོན་ པར་ བྱའོ།། ག་ མར་ མཚོང་ ཅིང་ ལྷག་ བཅོལ་ ལ་ ཟས་ བཟའ་ བར་ བྱའོ།།

¹ °bodhisattvā anuttara°] Ed.; °bodhisattvānuttara° ①②③④

² °vāms] ①③④Ed.; °vās ②

³ praśamayantv iti] ③④Ed.; praśamayantv īti ①; prasamayantv īti ②; pragamayantv iti ANa
⁴ pratyahaṃ] ①②③④Ed.; om. ANa

⁵ paurṇamāsyāṃ lakṣajāpo] Ed.; paurṇamāsi rakṣajāpo ①; paurṇamāsi lakṣajāpo ②; pau-
⁶ rṇamāsiṃ lakṣajāpo ③④

⁶ bhavanti] ①③④Ed.; bhavānte ②

⁷ °tithiṣu] ②③④Ed.; °tithiṣu ①

⁸ pośadhasambarī] ①②③④Ed.; pāsadha ANa

⁹ pallavopaviṣṭah] ②③④Ed.; pallavopaviṣṭah ①

¹⁰ kuśaṅḍikopaviṣṭo] ①②④Ed.; kuśaviṇḍakopaviṣṭo ③

¹¹ caityapaṭapaṭapustakapratimādinām] Ed.; caityapaṭapustakapratimādinām ①④; caitya-
¹² haṭupustakapratimādinām ②; cai+++pu++pratimādinām ③; caibhyayatapaṭapustakapra-
¹³ timādinām ANa

¹² kṛtakusumāvakīrṇamaṅḍalakah] Ed.; kṛtamuktakusumāvakīrṇamaṅḍalakah ①③④; kṛ-
¹⁴ tamuktasamāvakīrṇamaṅḍalakah ②; kṛtamuktāvakīrṇamaṅḍalakah ANa; kṛtakusumāvarṇa-
¹⁵ maṅḍalakah N

¹³ dharmodayamudrām] Ed.; dharmodayāmudrām ③④; dharmodayām ①②N

¹⁴ saptāṣṭavārān] ①②③④Ed.; saptāt aṣṭavārān A

1 §30-2. 【食事】 (At meals)

2 ཟ་ བ་ ཇ་ ཡང་ ལྷགས་ འདིས་ ལན་ བརྟུང་ ཏུ་ མཚོན་ པར་ བསྐྱབས་ ཏེ་ དང་ པོའི་ ཚ་ ཇི་ མངས་ རྒྱས་ དང་ བྱང་ རྒྱབ་
3 སེམས་ དཔལ་ ཐམས་ ཅད་ ལ་ ལྷ་ བཤོས་ ལྷ་ བྱས་ ལ་ འཕྱིང་ པོའི་ ཚོད་ ཏུ་ བཟའ་ བར་ བྱའོ།། དེ་ ལ་ ལྷགས་ ཇི་ འདི
4 ཡིན་ ཏེ།

5 སངས་ རྒྱས་ དང་ བྱང་ རྒྱབ་ སེམས་ དཔལ་ ཐམས་ ཐམས་ ཅད་ ལ་ བྱག་ འཚལ་ འོ།། ལྷོ་ ལྷོ་ བས་
6 D167v

6 ལྷིན་ པའི་ བཟེ་ བརྗིད་ ལྱི་ སྤེང་ བ་ ལྷ་ ཏུ། <mantra 30>

7 ཟོས་ པའི་ ལྷག་ མ་ ཡང་ འཕགས་ པ་ མི་ བཤོ་ བ་ བཏུམ་ མོ་ རོན་ ཡོད་ པའི་ ལྷིང་ པོས་ ལན་ ཅིག་ མཚོན་ པར་ བསྐྱབས་
8 ལ་ ལྷག་ མའི་ ཚང་ བྱ་ ལྷིན་ པར་ བྱ་ ལྷེ། རྟག་ ཏུ་ རྗེས་ ལྷ་ འཕྱེལ་ པ་ རྣམས་ ལྱིས་ ལླང་ བར་ དཔོས་ ལྷུབ་ ལྷེར་ བར་
9 བྱེད་ དོ།། ཟོས་ པ་ དལ་ སོས་ རྣས་ ལྱང་ ལྷིག་ པ་ བཤགས་ པ་ ལ་ སོགས་ པ་ བྱས་ ཏེ། དམ་ པའི་ ཚོས་ ལ་ དགའ་ བ་
10 ཉིད་ ལྱིས་ བཀའ་ པར་ བྱའོ།།

11 §30-3. 【午後】 (At afternoon)

12 བལ་ ཏེ་ རུས་ པར་ ལྷུར་ ཇ་ ལྱི་ རོ་ ཡང་ ལྷུང་ བ་ ལ་ སོགས་ པ་ ཡན་ ལག་ དང་ བཅས་ པ་ དང་ མཚོན་ པ་ ལ་ སོགས་ པ་
13 དེ་ དག་ ཐམས་ ཅད་ བྱས་ ལ་ བཟླས་ པ་ བྱའོ།། མི་ རུས་ ཇ་ ལྷ་ རོ་ བྱས་ པ་ ཉིད་ ལྱི་ ལྷུང་ བ་ ལ་ སོགས་ པ་ བཤགས་
14 ལ་ བཤོལ་ བར་ བཀའ་ པ་ ཉིད་ ལྱིས་ བམམ་ པ་ བརྟན་ པར་ བྱས་ ལ། འཕགས་ པ་ མི་ བཤོ་ རོ་ རྗེའི་ བྱག་ རྒྱ་
15 ལྷགས་ དང་ བཅས་ པས་ བཤགས་ བསྐྱད་ ཅིང་ ཡི་ བལ་ ལྷ་ པ་ ལ་ སོགས་ པ་ བཀའ་ བཀའ་ ཡང་ རུང་ བ་ བྱག་ རྒྱ་ དང་
16 བཅས་ པས་ ལྷུང་ བ་ བྱས་ ཏེ། མཚོན་ པ་ དང་ བརྟོད་ པ་ ལ་ སོགས་ པ་ ཡང་ ཉེ་ བར་ ལླངས་ བེད་ ལྷུང་ བཞིན་ ཏུ་ བཟླས་
17 པར་ བྱའོ།། ཉི་ མ་ རྣས་ པ་ དང་ ར་ བ་ དང་ ལྷུང་ ལ་ སོགས་ པས་ བཤགས་ ལྷ་ བཤོལ་ ལ། འོད་ ཟེར་ ལྱི་ སྤེང་ བའི་
18 ཚོ་ བ་ བརྗོ་ བར་ བྱ་ ལྷེ། བན་ རྒྱན་ ཏུ་ སོར་ མོ་ ལྷེལ་ བས་ རན་ ཏུ་ ལྷ་ རྒྱར་ ལ་ ལྷུང་ མོ་ བཤགས་ ལལ་ བཞིན་ ཏུ་ ལྷུང་
19 བརྟུང་ བ་ དེའི་ ཚོགས་ བཤམས་ པ་ ལ་ མཚུབ་ མོ་ ལྷུང་ བུ་ ལྷེ་ མོ་ མོ་ སོར་ བཀྱང་ པའི་ འོགས་ ལ་ མཐོ་ བོང་ དག་ ལྷུང་

8 བསྐྱབས་ ལ་] D; ལྷགས་ ལ་ P 8 ལྷིན་ པར་] D; ལྷིན་ པར་ P 9 སོས་ རྣས་] D; བཤོས་ རྣས་ P 12 རུས་ པར་]
D; རུས་ པ་ P 12 ཡང་ ལྷུང་ བ་] D; ཡང་ བསྐྱང་ བ་ P 13 ཉིད་ ལྱི་ ལྷུང་ བ་] D; ཉིད་ ལྱིས་ བསྐྱང་ བ་ P 14 འཕགས་
པ་ མི་ བཤོ་] D; འཕགས་ མི་ བཤོ་ P 16 ལྷུང་ བ་] D; བསྐྱང་ བ་ P 18 ཚོ་ བ་ བརྗོ་] D; བོ་ ཚ་ བཤོ་ P 19 དེའི་
ཚོགས་] D; དེའི་ ཚོག་ P

1 བ་ནི་འོད་ཟེར་ལྷེད་པའི་ཕྱག་རྒྱའོ།། ལྷགས་ནི།

2 ཏུས་གསུམ་དུ་གཤེགས་པའི་དེ་བཞིན་གཤེགས་པ་རྣམས་ལ་ཕྱག་འཚལ་ལོ།། དམ་ཚོག་ཚེན་
3 བོ་རྟོགས་པ། མཉམ་པ་ཉིད་སྤྱགས་སུ་རྒྱུད་པ་ཐམས་ཅད་དུ་མཉམ་པར་སེམས་ཅན་རྣམས་
4 ལྷོབ་པ། ཚོས་ཀྱི་དབྱིངས་ཤིན་ཏུ་ཆགས་པ་མེད་པ་སྣ་ལྔ། <mantra 31>

5 §30-4. 【夜】(At night)

6 རས་ཀྱི་ཆ་རྟོན་དང་ཆ་སྣང་ལ་ཡང་མི་ཉལ་བར་དམ་པའི་ཚོས་གདོན་པ་ལ་སོགས་པ་བྱའོ།། གྲང་ལྷན་ལ་
7 ཡང་མི་སྣངས་པའི་མལ་སྟན་ལ་སངས་རྒྱས་དང་བྱང་ཆུབ་སེམས་དཔའ་ཐམས་ཅད་ལ་ཡན་ལག་ཐམས་ཅད་
8 ཀྱིས་ལེགས་པར་ཕྱག་འཚལ་བ་ཉིད་ཀྱིས་ཉལ་བར་བྱའོ།། མཆེན་དུ་གསོལ་བ་ཡང་བྱ་སྟེ། སངས་རྒྱས་དང་
9 བྱང་ཆུབ་སེམས་དཔའ་ཐམས་ཅད་ཀྱིས་བདག་ལ་བྱིན་གྱིས་བཤམ་ཏུ་གསོལ། ལྷ་ན་མེད་པའི་དངོས་སྲུབ་ཀྱི་
10 མཚོག་རྣམས་ཀྱང་སྣལ་དུ་གསོལ། རྒྱུད་ཀྱིས་ཉེ་བར་འཚོ་བ་རྣམས་ཐམས་ཅད་ཀྱང་རབ་ཏུ་ཞི་བར་མཛད་དུ་
11 གསོ་ཞེས་སོ།།

12 §30-5. 【微候の顕現】(Manifestation of nimitta)

13 ཚོ་ག་འདི་ཉིད་ཀྱང་ཉི་མ་རེ་རེ་ཞིང་འབྲུམ་ཕྱག་བརྒྱས་པ་དང་རི་མྱིད་དུ་རྒྱ་བ་ཉེའི་བར་དུ་སྟེ། རི་མྱིད་དུ་
14 སྲུབ་པའི་རྟོགས་བྱུང་བར་སྲུང་གི་བར་དུའོ།། དེ་ནས་རྒྱ་བ་ཉེ་བ་ལ་སོགས་པའི་ཚོས་གྲངས་ལ་ཟས་བཅད་
15 བཅིང་ལྟོགས་པར་ཉལ་བ་བསྟེན་གནས་ཀྱི་སྟོམ་པ་དང་ལྡན་པས་ལོ་འདབ་ཀྱི་སྟན་ལ་ཉེ་བར་གནས་པའམ་
16 ཀྱན་གཤམ་ཆང་བྱ་ལ་ལེགས་པར་གནས་པ་ཡང་རུང་སྟེ། མཚོན་རྟེན་དང་ཐང་ཀ་དང་པོ་རྟི་དང་རྒྱ་གཟུགས་ལ་
17 སོགས་པ་རྣམས་གང་ཡང་རུང་བའི་མདུན་དུ་མེ་རྟོག་གིས་ཀྱན་དུ་གང་བར་བྱས་པའི་མ་རྒྱལ་བྱས་ལ་སྲུང་
18 བ་དང་མཚོན་པ་ལ་སོགས་པ་ཡན་ལག་དང་བཅས་པ་རྣམས་ནི་སྣ་མ་བཞིན་ཏེ། ཚོས་འབྲུང་བཅིངས་ལ་དེའི་
19 ལྷགས་རྗེས་སུ་དན་པར་བྱའོ།། དེ་ནས་རང་གི་ལྷའི་ཕྱག་རྒྱ་བཅིངས་ལ་དེའི་སྲུགས་ལན་བདུན་ནས་བརྒྱད་

3 རྟོགས་པ་། D; རྟོག་པ་ P 11 གསོ་ཞེས་སོ། D; གསོ་ P 15 བཅིང་། D; ཅིང་ P 15 བསྟེན་གནས་། D; བསྟེན་
ནས་ P 15 འདབ་ཀྱི་། D; འདབ་ཀྱི་ཞེས་སོ། P 16 ཀྱན་གཤམ་། D; ཀྱ་གཤམ་ P 17 མེ་རྟོག་གིས་། D; མེ་རྟོག་གི་ P
18 ལྷུང་བ་། D; བསྲུང་བ་ P

1 བ་ བྱས་ རས། མཚོན་ པ་ དང་ བསྟོད་ པ་ ལ་ སོགས་ པའི་ ཚོ་ ག་ ལྷོན་ བཞིན་ ཏུ་ བྱས་ ཏེ། བཟུམ་ པ་ བྱའོ། གྱི་ རྩི་
2 ཏུས་ སུ་ ཡང་ ར་ བ་ དང་ གྲུང་ ལ་ སོགས་ པ་ གཤེགས་ རས་ འོད་ ཟེར་ སྲིང་ བས་ བོ་ ཚ་ བྱའོ། མན་ ཚུན་ ཏུ་ སོར་ མོ་
3 རྣམས་ འཕྲུང་ པ་ རང་ ཏུ་ ལུ་ ཚུར་ བཅངས་ ཏེ་ གྲུང་ མོ་ ཚེ་ མོའི་ རྣམ་ པར་ བྱས་ རས་ བརྒྱུད་ པ་ ལ་ མཛུབ་ མོ་ གཉིས་
4 དེའི་ ཚེགས་ གསུམ་ པར་ བཞག་ ལྟེ། མཐེ་ བོད་ དག་ ལ་ ལོགས་ སུ་ བྱས་ པ་ རྟི། འོད་ ཟེར་ གྱི་ སྲིང་ བའི་ བྱག་ རྒྱའོ།
5 སྒྲགས་ རྟི།

6 ར་ མཚེ་ ལྷི་ ཡ་ ཚྷི་ ཀཱ་ རྩྭ་ ཏུ་ བྲ་ ག་ ཏུ་ རྩྭ་ མ་ རྩ་ མ་ མ་ ཡ་ ག་ ཏེ་ ག་ ཏེ། ས་ མ་ ཏེ་ ས་ མ་ ཏེ། ས་
7 ས་ སམ་ བྲ་ སུ་ ཏུ་ ཏ་ ཀེ། ཚྷ་ མ་ ཚྷ་ ཏུ་ བྲ་ ར་ ཏུ་ སྟི་ ག་ ཏེ་ སྒྲ་ ཏུ། <mantra 31>

8 §30-4. 【夜】 (At night)

9 རས་ གྱི་ ཚ་ རྟོད་ དང། ཚ་ སྤྲང་ ལ་ མི་ ཉལ་ བར་ དམ་ པའི་ ཚོས་ གྱི་ ལ་ ཏོན་ ལ་ སོགས་ པ་ བྱའོ། གྲུང་ ལུན་ ལ་ སྲི་
10 ལ་ སོགས་ པ་ སྤངས་ པའི་ ཉལ་ ས་ ལ་ སངས་ རྒྱས་ དང། བྱང་ རྒྱབ་ སེམས་ དཔལ་ ཐམས་ ཅད་ ལ་ ཡན་ ལག་ ཐམས་
11 ཅད་ གྱིས་ བྱག་ འཚོལ་ བ་ བཞིན་ ཏུ་ ཉལ་ བར་ བྱའོ། ལུ་ བ་ ཡང་ བྱ་ ལྟེ། སངས་ རྒྱས་ དང་ བྱང་ རྒྱབ་ སེམས་ དཔལ་
12 སྲ་ ར་ མེད་ པའི་ དོངས་ ལུབ་ གྱི་ མཚོག་ ལྟེར་ བ་ པོ་ ཐམས་ ཅད་ གྱིས་ བདག་ ལ་ བྱིན་ གྱིས་ བརྟུབ་ ཏུ་ གསོལ། བར་
13 ཏུ་ གཙེད་ པ་ ཐམས་ ཅད་ རབ་ ཏུ་ ཞི་ བར་ མཛོད་ ཏུ་ གསོལ་ ཞེས་ མོ།

14 §30-5. 【微候の顕現】 (Manifestation of nimitta)

15 དེ་ བཞིན་ ཏུ་ ཚོ་ ག་ འདིས་ ཉི་ མ་ སོ་ སོལ་ ཇི་ སྲིད་ ལྷ་ བ་ གང་ གང་ ལྷི་ བར་ ཏུ་ འབྱས་ བཟུམ་ པར་ བྱའོ། ཡང་ ར་ ཇི་
16 སྲིད་ དོངས་ ལུབ་ གྱི་ མཚོན་ མ་ མ་ ལུང་ ལྷི་ བར་ ཏུའོ། དེ་ རས་ ལྷ་ བ་ ལ་ སོགས་ པའི་ ཚོས་ གྲངས་ ལ་ ཐམས་ བཅད་
17 ཅིང་ ལྷུང་ བར་ གནས་ རས་ གསོ་ ལྷོད་ ལྷི་ ལྷོམ་ པ་ གཞུང་ བར་ བྱ་ བ་ རྟི། ཤིང་ ལོ་ འམ། ཀུ་ ཤིང་ ལྷོན་ པའི་ ལྷེད་ ཏུ་ ཉི་
18 བར་ བསྟུང་ རས་ མཚོན་ རྟེན་ དང། ཐང་ ལྷུ་ དང་ པོ་ ཏེ་ དང། ལྷུ་ གཞུགས་ ལ་ སོགས་ པ་ གཞན་ ཇི་ ལྟར་ རྟེད་ པའི་ ལུང་
19 ཏུ་ མེ་ ཏོག་ སིལ་ མ་ གཅལ་ ཏུ་ བཀའ་ པའི་ མ་ ལྷལ་ བྱས་ རས་ ལྷུང་ བ་ དང། མཚོན་ པའི་ བྱ་ བ་ བྱས་ རས། ལྷོན་

1 ལྷུང་ བ་ ཏེ། D; བསྟུང་ བ་ P 2 མན་ ཚུན་ ཏུ་ ཏེ། D; མན་ ཚུན་ P 6 ཡ་ ཚྷི་ ཀཱ་ རྩྭ་ ཏུ། D; ཡང་ ཚྷི་ ཀཱ་ རྩྭ་ P 6 ག་ ཏེ་ ག་ ཏེ།
D; ག་ ཏེ་ ག་ ཏེ་ P 7 མི་ མི་ རྩྭ་ ཏུ། D; ཚྷ་ མ་ ཚྷ་ རྩྭ་ ཏུ། P 7 སྟི་ ག་ ཏེ། D; སྟི་ ལྷི་ P 9 ཚ་ སྤྲང་ ལ་ ཏེ། D; ཚ་ སྤྲང་ P
15 བར་ ཏུ་ འབྱས་ ཏེ། D; བར་ འབྱས་ P 17 ཅིང་ ལྷུང་ ཏེ། D; ཅིང་ ལྷུང་ P 19 ལྷུང་ བ་ དང་ ཏེ། D; བསྟུང་ བ་ དང་ P

1 བཞིན་ ཚོས་ འབྱུང་ ལི། ། ལྷག་ རྒྱ་ བཅིངས་ ནས། རེ་ རྣམས་ རྗེས་ སུ་ རྩན་ བར་ ལྱོལ། རེ་ ནས་ རར་ ལི་ ལྷནི་ ལྷག་
D65r
2 རྒྱ་ བཅིངས་ རྟེ། རེ་ རྣམས་ བདུན་ ནས་ བརྒྱན་ བསྐྱེས་ ནས་ ནས་ རྗེས་ བལྟ་ བར་ ལྱོལ།

3

4 §31. 【大いなる徴候】 (*Mahānimitta*)

5 [① 6v2-, ② 5r3-, ③ 6v2-, ④ 4v4-, Ed.=p.12 l.3-]

6 tataḥ¹ sarvabuddhabodhisattvān praṇamya cakravajrādikaṃ² grhītvā samantabhadratathā-
7 gatakāyādisuddhim³ abhilaṣan⁴ svasamīhitasiddhau⁵ hṛdayam ādhāya sarvabud-
8 dhabodhisattvapraṇāmāmbanajāpam abhyasan⁶ sarvabuddhabodhisattvapunya-
9 jñānasambhārānumodanābhyāsacetanayā⁷ saṃdhyārāgāt⁸ prabhṛti tāvaj japet yā-
10 vad ardhārātre sūryodaye vā taccakrādikaṃ⁹ avāśyaṃ prajvalati. jvalite¹⁰ cākāśāt
11 buddhotpāda iva mahānimittāni puṣpavṛṣṭidundubhidhvanidivyaghoṣatathāgatasādhukārādīni¹¹
12 buddhakṣetrakampanādīni¹² cātyadbhutāni¹³ bhavanti. sarvavidyādharakulāni ca
13 sannipatanti. tair abhiṣicyate. sarvalokadhātuṣu buddhabodhisattvārādhakaḥ pañcāb-

¹ tataḥ] ①②Ed.; tata ③④

² cakravajrādikaṃ] ②④; cakrapūjādikaṃ ②④Ed.

³ °kāyādisuddhim] Ed.; °kādisuddhim ①③④ANa; °++suddhim ②

⁴ abhilaṣan] ①③④Ed.; abhilaṣana ②

⁵ svasamīhita°] ①③④Ed.; svasamāhita° ②

⁶ abhyasan] ①③④Ed.; abhyasyan ②

⁷ °sambhārānumodanābhyāsacetanayā] ①③④Ed.; °sambhārān aumodanābhyāsacetanayā ②;
°sambhārānumodanābhyāsvetarayā ANa

⁸ rāgāt] ①③④Ed.; ++ ②

⁹ taccakrādikaṃ] ①③④Ed.; taccakrādikas ②

¹⁰ jvalite] ①②③④Ed.; jvalitā N

¹¹ kārādīni] ①③④Ed.; kārādīm+i ②

¹² °kampanādīni] ②③④Ed.; °kampanādīni ①

¹³ cātyadbhutāni] ②Ed.; cādbhutāni ①③④A

2 བལྟ་ བར་ ལྱོལ།] D; ལྟ་ བར་ ལྱོལ། P

¹¹ *Hevajra*. Snellgrove 1959. p.14 ll.20-22.; ... abhiṣicyamāne puṣpavṛṣṭir bhavati. dundubhiśabda uccalati.

- 1 hijñāḥ sarvabuddhabodhisattvābhinandito bodhisattvacaryācārī¹ vidyādhararājo bha-
2 vati². anantavidyādharastrīparivārah³ sukhānuyāyī na⁴ ca tasmāt kāyād dhīyate⁵.
3 tenaiva ca kāyenānupūrvasambhāropacayataḥ⁶ sarvabodhisattvabhūmir⁷ ākrāmati
4 yāvād abhisambuddhyate ceti.
5 anyāś ca buddhabodhisattvadarśanacintāmañibhadraghaṭādisarvalaukikalokottarasiddhayo⁸
6 'nenaiva⁹ vidhinā¹⁰ sāmānyaviśayapaṭaladr̥ṣṭena¹¹ vā vidhinā¹² tantram avalokya
7 nirvicikitsaiḥ sādhanīyāḥ¹³. niyataṃ sidhyantīty ayam¹⁴ upāyavatāṃ sādhanavid-
8 hiḥ¹⁵ anupāyais tu yathāśakti sādhanam¹⁶ kartavyam¹⁷. yathokte nāhaṃ śakta iti
9 nāvasāditavyam¹⁸. antata ekām¹⁹ apy ātmarakṣāṃ kṛtvā sīmābandhanañ ca²⁰ pūjādikañ
10 ca²¹ cintayitvā tanmantrān uccārya yāvadicchaṃ²² japet sādhayed vā. vīryānurū-

1 °caryācārī] ②③④Ed.; °caryācārī ①

2 bhavati] ②③④Ed.; bhavanti ①

3 °dharastrīparivārah] ②Ed.; °dharaparivārah ①③④ANa

4 sukhānuyāyī na] ①③④Ed.; sukhānuyāyīn ②

5 kāyād dhīyate] ①③④Ed.; kāyādhīpra ②

6 °pacayataḥ] ①②③④Ed.; °payacataḥ A

7 °bhūmir] ①Ed.; °bhūmīr ②③④

8 °darśanacintāmañi°] ②③④Ed.; °daśanacintāmañi° ①

9 'nenaiva] ①③④Ed.; namanaiva ②

10 vidhinā] Ed.; vidhāna ①②③④A

11 sāmānyaviśaya°] Ed.; sāmānyaviśetva° ①; sāmānyaviśeṣa° ②③④

12 vidhinā] ①③④Ed.; vidhainā ②

13 sādhanīyāḥ] Ed.; sādhanīyā ①②③④

14 sidhyantīty ayam] ①③④Ed.; sidhyanti tyajayam ②

15 sādhanavidhiḥ] ①④Ed.; sādhanavidhi ②; sādhanavidhiḥ ③

16 sādhanam] ①③④Ed.; sādhana ②

17 kartavyam] ①③④Ed.; kastayam ②

18 nāvasāditavyam] ②④Ed.; nāvasititavya ①; nāvasititavyam ③; nāvasititavya ANa; nāvasāti-
tavyam N

19 antata ekām] ①③④Ed.; ananta++ ②

20 °ndhanañ ca] ①③④Ed.; °ndhañ ca ②

21 pūjādikañ ca] ①③④Ed.; om. ②

22 yāvadicchaṃ] ①③④Ed.; yāvadiccha ②

1 paṃ¹ karmānurūpaṃ cāvaśyam eva sidhyati². eko 'pi trailokyam rakṣitam³ śamati⁴
 2 tantravacanāt⁵. amoghasiddhiś⁶ cāyam trisamayarājah nirvighnasiddhiś ca maṇiṣi-
 3 tavidhir iti⁷. pūrvasevādividhirahitaṃ⁸ sarvabuddhabodhisattvāmbanamātram
 4 kṛtvā jagadarthacittena mantrānuṣṭhānam.

5 [TibA; D168r4-, P207r8-]

6 དེ ནས་ སངས་ རྒྱས་ དང་ བྱང་ རྒྱབ་ སེམས་ དཔའ་ ཐམས་ ཅད་ ལ་ ཡན་ ལག་ ལྡན་ ལྷག་ འཚམ་ ལ་ འཁོར་ འཁོརས་
 7 རྟོ་རྗེ་ ལ་ སོགས་ པ་ བརྒྱབ་ ནས་ ཀྱན་ ཏུ་ བཟང་ རོ་ དང་ དེ་ བཞིན་ གཤེགས་ པའི་ ལྷ་ ལ་ སོགས་ པ་ དག་ པར་ ལྷར་
 8 པ་ མཛོན་ པར་ འདོད་ པས་ དཔོན་ ལྷུ་ རང་ དང་ ཁད་ ཉེ་ བར་ ཡིད་ ལ་ བྱས་ ཉི། སངས་ རྒྱས་ དང་ བྱང་ རྒྱབ་ སེམས་
 9 དཔའ་ ཐམས་ ཅད་ ལ་ ལེགས་ པར་ འཚམ་ བ་ ལ་ དམིགས་ པས་ བརྒྱས་ པས་ སོགས་ ཤིང། སངས་ རྒྱས་ དང་ བྱང་
 10 རྒྱབ་ སེམས་ དཔའ་ རྣམས་ ཐམས་ ཅད་ གྱི་ བསོད་ ནསས་ དང་ ཡི་ ཤེས་ གྱི་ ཚོགས་ ལ་ རྗེས་ སུ་ ཡི་ རང་ བ་ སོགས་
 11 པར་ ལྷར་ པའི་ སེམས་ གྱིས་ ཉེ་ མ་ རྒྱས་ པ་ ནས་ བརྒྱབ་ ནས་ ཇི་ སྲིད་ ཏུ་ ནས་ ལྷེད་ དས་ ཉེ་ མ་ ཤར་ པའི་ བར་ དེ་
 12 སྲིད་ ཏུ་ བརྒྱས་ པར་ བྱའོ། །དེ་ དག་ ལས་ ཀྱང་ འཁོར་ ལོ་ ལ་ སོགས་ པ་ གཤོན་ མི་ ཟ་ བར་ འབར་ བར་ འཇུར་ རོ། །
 13 འབར་ བ་ ལས་ ཀྱང་ སངས་ རྒྱས་ འཇུར་ བ་ དང་ འདྲ་ བར་ ལྷས་ ཚེན་ རོར་ ལྷར་ པ་ ནས་ མཁའ་ ལས་ མེ་ ཉོག་ གི་
 14 ཚར་ འབབ་ པ་ དང་ ཇ་ ཏུན་ ཏུའི་ ལྷ་ དང་ ལྷ་ ཇས་ གྱི་ དབྱངས་ དང་ དེ་ བཞིན་ གཤེགས་ པ་ རྣམས་ གྱིས་ ལེགས་
 15 སོ་ ཞེས་ བྱ་ བ་ ལ་ སོགས་ པ་ དང། སངས་ རྒྱས་ གྱི་ ཞིང་ གཤེས་ བ་ ལ་ སོགས་ པ་ རོ་ མཚར་ བ་ རྣམས་ འཇུར་ རོ། །
 16 ཇིག་ པ་ འཛིན་ པའི་ ཇིགས་ ཐམས་ ཅད་ ཀྱང་ ལེགས་ པར་ འདུ་ བར་ འཇུར་ རོ། །དེ་ དག་ རྣམས་ གྱིས་ ཀྱང་ དབང་

1 vīryānurūpaṃ] ①②③④Ed.; vīryānujñāyaṃ ANa
 2 sidhyati] ②③④Ed.; sidhya ①
 3 rakṣitam] ①③④Ed.; lakṣitam ②
 4 śamati] ①④Ed.; śrameti ②; kṣameti ③
 5 tantravacanāt] ①④Ed.; tantrair vacanāt ②; tanre vacanāt ③
 6 amoghasiddhiś] ①③④Ed.; amoghasiddhās ②
 7 maṇiṣitavidhir iti] Ed.; maṇiṣitavidhir iti ①④; maṇiṣitavidhisiddha ②; maṇiṣitavidhir iti ③
 8 pūrvasevādividhirahitaṃ] ①③④Ed.; pūrvasevādivirahitaṃ ②

7 ལ་ སོགས་ པ་] D; ལ་ སོགས་ པ་ P 9 ལེགས་ པར་] D; ལེགས་ པར་ ལྷག་ P 9 བརྒྱས་ པས་] D; བརྒྱས་ པ་ P 11 རྒྱས་ པ་] D; རྣམས་ པ་ P 14 ཏུན་ ཏུའི་] D; འདུན་ ཏུའི་ P

1 བསྐྱར་བར་འགྱུར་རོ། །འཛིག་རྟེན་གྱི་ལམས་ཐམས་ཅད་ཏུ་སངས་རྒྱས་དང་བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔལ་རྣམས་
 2 མཉེས་པར་བྱེད་པ་དང། མཛོན་པར་ཤེས་པ་ལྟ་དང་ལྟན་པ་དང། སངས་རྒྱས་དང་བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔལ་
 3 ཐམས་ཅད་མཛོན་པར་དགེས་པར་འགྱུར་བ་དང། བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔལ་ལྷན་པ་སྦྱོང་པའི་རིག་པ་འཛོན་
 4 པའི་རྒྱལ་པོར་འགྱུར་ཏེ། རིག་པ་འཛོན་པའི་འཁོར་མཐའ་ཡས་པ་དང་ལྟན་པ་དང་བདེ་བ་རྗེས་སུ་འབེལ་
 5 བར་འགྱུར་རོ། །འོན་ཀྱང་ལུས་དེ་ཉིད་ཉམས་པར་ཡང་མི་འགྱུར་ཞིང་ལུས་དེ་ཉིད་ལོ་ནས་མཛོན་ཏུ་ཚོགས་
 6 ཉེ་བར་བསགས་ཏེ་བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔལ་ལ་རྣམས་ཐམས་ཅད་ཡང་དག་པར་བགྲོད་ཅིང་རི་སྲིད་ཏུ་མཛོན་
 7 པར་རྒྱགས་པར་སངས་རྒྱས་ཀྱི་བར་དུ་འོ།།
 P208r

8 གཞན་ཡང་སངས་རྒྱས་དང་བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔལ་མཐོང་བ་དང་ཡིད་བཞིན་གྱི་ལོ་ན་ཏུ་དང། བུམ་པ་བཟང་
 9 པོ་ལ་སོགས་པ་འཛིག་རྟེན་དང་འཛིག་རྟེན་ལས་འདས་པའི་དངོས་གྲུབ་ཐམས་ཅད་ཀྱང་རྒྱལ་འདི་ཉིད་ཀྱིས་
 10 ལྷོད་དང་བྱེ་བྲག་གི་ལེའུ་རྣམས་མཐོང་བས་སམ་ཚོ་ག་བཞིན་ཏུ་རྒྱུད་ལེགས་པར་བརྟུལ་ཤིང་རེས་པར་ཐེ་
 11 ཚོས་མེད་པར་བུས་ལ་བརྟུབ་པར་བྱ་སྟེ། དེས་པ་ལོ་ནར་འགྲུབ་པར་འགྱུར་རོ། །འདི་ནི་ཐབས་དང་ལྟན་པའི་
 12 ལྷན་ཐབས་ཀྱི་ཚོ་ག་ཡིན་ལ། ཐབས་དང་བུམ་བས་ཀྱང་བརྟུལ་པར་བྱ་བ་ཡིན་པས། ཇི་སྟན་ཏུ་བཤད་པ་
 13 རྣམས་ནི་བདག་གིས་རུས་པ་མ་ཡིན་ནོ་ཞེས་ཞུས་པར་མི་བྱ་བར་ཐ་མར་ན་བདག་ཉིད་གཅིག་ལུ་སྲུང་བ་
 14 ཅོང་བྱ་སྟེ། མཚོམས་བཅད་པ་དང་མཚོན་པ་ལ་སོགས་པ་རྣམས་ནི་བསམ་པར་བྱ་ཞིང་དེ་དག་གི་སྲུགས་
 15 བཛོད་ལ། ཇི་སྲིད་འདོད་ཀྱི་བར་ཏུ་བརྒྱས་པར་བྱའོ། །བརྟུལ་པར་གྱུར་ན་བཙོན་འགྲུབ་ཀྱི་རྗེས་སུ་མཐུན་
 16 པ་དང་ལས་ཀྱི་རྗེས་སུ་མཐུན་པར་རེས་པ་ལོ་ནར་འགྲུབ་པ་ཡིན་ཏེ། གཅིག་གིས་ཀྱང་འཛིག་རྟེན་གསུམ་
 17 བསྐྱར་བར་རུས་པ་ཡིན་ནོ། །ཞེས་རྒྱུད་ལས་གསུངས་པའི་ཕྱིར་རོ། །དམ་ཚིག་གསུམ་གྱི་རྒྱལ་པོ་འདི་ནི་དོན་
 18 ཡོད་པར་གྲུབ་པ་དང་བར་ཚད་མེད་པར་གྲུབ་པ་ཡིན་ཏེ།
 D169r

19 [TibB; D65r1-, P82v4-]

20 དེ་ནས་སངས་རྒྱས་དང། བྱང་རྒྱལ་སེམས་དཔལ་ཐམས་ཅད་ལ་ཕྱག་འཚལ་ཏེ་འཁོར་ལོ་དང་རྫོང་རྗེ་ལ་སོགས་
 6 སེམས་དཔལ་ས་། D; སེམས་དཔལ་ས་ P 6 རྣམས་ཐམས་ཅད་། D; རྣམས་ P 9 འདི་ཉིད་ཀྱིས་། D; འདི་ཉིད་ཀྱི་ P
 11 ཐབས་དང་ལྟན་པའི་། D; ཐབས་ལྟན་པའི་ P 12 ཀྱང་བརྟུལ་པར་། D; ཀྱང་རྟུལ་པར་ P 13 གཅིག་ལུ་སྲུང་། D;
 ཅིག་ལུ་བསྐྱར་ P 20 ལྷག་འཚལ་ཏེ་། D; ལྷག་འཚལ་ལོ། P

1 བ་ འཛིན་ པའི་ དེ་ བཞིན་ གཤེགས་ པ་ ཀུན་ ཏུ་ བཟང་ པོའི་ ལྷ་ ལ་ སོགས་ པ་ དག་ ཅིང་ རང་ གིས་ མངོན་ པར་ འདོད་
 2 པའི་ དངོས་ གྲུབ་ གྱི་ ལྷིང་ པོ་ ལྷང་ བའི་ ལྷིང་ སངས་ རྒྱས་ དང་། བྱང་ རྒྱབ་ སེམས་ དཔལ་ ཐམས་ ཅད་ ལ་ ལྷག་ འཚོལ་
 3 བར་ དམིགས་ ཅས་། བརྒྱས་ པ་ བརྒྱས་ ཞིང་། སངས་ རྒྱས་ དང་། བྱང་ རྒྱབ་ སེམས་ དཔལ་ ཐམས་ ཅད་ གྱི་ བསོད་
 4 ཅམས་ དང་ ཡེ་ ཤེས་ གྱི་ ཚོགས་ ལ་ རྗེས་ སུ་ ཡི་ རང་ བ་ ལ་ ཡིད་ ཀྱིས་ ཤོམས་ པར་ བྱས་ ཅས་ ཉི་ མ་ ལུབ་ པ་ ལ་
 5 སོགས་ པ་ ཅས་། ཇི་ སྲིད་ ཅ་ མ་ ལྷེད་ གྱི་ བར་ རམ་། ཉི་ མ་ ཤར་ གྱི་ བར་ དེ་ སྲིད་ ཏུ་ བརྒྱས་ པས་ འཁོར་ ལོ་ ལ་
 6 སོགས་ པ་ རབ་ ཏུ་ འབར་ བར་ འཇུར་ རོ། ། འབར་ བ་ དང་ ཅམ་ མཁའ་ ལ་ སངས་ རྒྱས་ ལ་ སོགས་ པ་ འོན་ པ་ བཞིན་
 7 ཏུ་ ཉགས་ ཚེན་ པོ་ ཅམས་ དང་། མེ་ རོག་ གི་ ཆར་ དང་། རའི་ ལྷ་ དང་། ལྷའི་ དབྱངས་ དང་། དེ་ བཞིན་ གཤེགས་ པ་
 8 ཅམས་ ཀྱིས་ ལེགས་ སོ་ ཞེས་ བཛོད་ པ་ ལ་ སོགས་ པ་ དང་། སངས་ རྒྱས་ ཀྱི་ ཞིང་ གཡོ་ བ་ ལ་ སོགས་ པ་ ཤིན་ ཏུ་
 9 རོ་ མཚར་ བ་ ཅམས་ ཀྱང་ འབྱུང་ བར་ འཇུར་ རོ། ། རིག་ པ་ འཛིན་ པའི་ རིག་ པ་ ཐམས་ ཅད་ ཀྱང་ འབྱུང་ བར་ འཇུར་
 P83r
 10 རོ། ། འཇིག་ རྟེན་ གྱི་ ཁམས་ ཐམས་ ཅད་ ཅ་ བཞུགས་ པའི་ སངས་ རྒྱས་ དང་། བྱང་ རྒྱབ་ སེམས་ དཔལ་ ཅམས་ ཀྱིས་
 11 མངོན་ པར་ དབང་ བརྒྱར་ བར་ འཇུར་ ཞིང་། མངོན་ པར་ ཤེས་ པ་ ལྷ་ ཐོབ་ པ་ དང་། སངས་ རྒྱས་ དང་། བྱང་ རྒྱབ་
 12 སེམས་ དཔལ་ ཐམས་ ཅད་ ཀྱིས་ མངོན་ པར་ བསྟོད་ པ་ དང་། བྱང་ རྒྱབ་ སེམས་ དཔལ་ ལྷུང་ པ་ ལྷོད་ ཅིང་། རིག་ པ་
 13 འཛིན་ པའི་ རྒྱལ་ པོར་ འཇུར་ རོ། ། རིག་ པ་ མཐའ་ ཡས་ པ་ འཛིན་ པའི་ བྱད་ མེད་ ཀྱི་ འཁོར་ ལུས་ མ་ ཉམས་ པ་
 14 ཅམས་ ཀྱིས་ བདེ་ བར་ རྗེས་ སུ་ འཇུག་ པར་ འཇུར་ རོ། ། དེ་ བཞིན་ ཏུ་ ཡང་ ལུས་ ལ་ སོགས་ པའི་ རིམ་ པས་ ཚོགས་
 15 བསགས་ པས་ བྱང་ རྒྱབ་ སེམས་ དཔལ་ ས་ ཐམས་ ཅད་ རོན་ པར་ འཇུར་ ཞིང་ མངོན་ པར་ བྱང་ རྒྱབ་ པར་ འཇུར་ རོ་
 16 ཞེས་ སོ། །
 17 གཞན་ ཡང་ སངས་ རྒྱས་ དང་། བྱང་ རྒྱབ་ སེམས་ དཔལ་ ཅམས་ ཀྱིས་ གཟེགས་ པ་ དང་། ཡིད་ བཞིན་ གྱི་ རོར་ བྱ་ དང་།
 18 བུམ་ པ་ བཟང་ པོ་ ལ་ སོགས་ པ་ འཇིག་ རྟེན་ དང་། འཇིག་ རྟེན་ ལས་ འདས་ པའི་ དངོས་ གྲུབ་ ཐམས་ ཅད་ ཐོབ་ པར་ བར་
 D65v
 19 འཇུར་ རོ། ། འདིས་ དེ་ བཞིན་ ཏུ་ ཚོ་ ག་ ལྷིང་ ལྷུང་ པར་ ཏུ་ འཕགས་ པའི་ རིམ་ པར་ བལྟ་ བའམ། ཚོ་ ག་ ལྷུང་ ལས་
 20 བལྟས་ ཅ་ ཐེ་ ཚོམ་ མེད་ པར་ རེས་ པར་ བལྟས་ པས་ དངོས་ གྲུབ་ ཏུ་ འཇུར་ རོ་ ཞེས་ སོ། ། འདིར་ ཐབས་ དང་ ལྷན་ པ་

1 རང་ གིས་ མངོན་ ། D; མངོན་ P 2 འདོད་ པའི་ ། D; རང་ གི་ འདོད་ པའི་ P 9 ཅམས་ ཀྱང་ ། D; ཅམས་ P 14 ཀྱིས་
 བདེ་ བར་ ། D; ཀྱིས་ བདེ་ བ་ P 20 བལྟས་ ཅ་ ། D; ལྷས་ ཅ་ P

1 རྣམས་ གྲིས་ སྐྱབ་ ཐབས་ གྱི་ ཚོ་ གས་ ཇི་ ལྟར་ རུས་ པ་ བཞིན་ བསྐྱབ་ པར་ གྲོལོ། ཇི་ ལྟར་ གསུངས་ པ་ བདག་ གིས་
 2 རུས་ པ་ བཞིན་ གྲོལོ། མཐར་ གཅིག་ སུ་ ཡང་ བདག་ ཉིད་ སྤྱད་ བར་ གུས་ རས་། མཚམས་ བཅད་ པ་ དང་། མཚོན་
 3 པ་ ལ་ སོགས་ པ་ ཡིད་ གྲིས་ གུས་ རས་། དེའི་ སྲགས་ བཛོད་ ཅིང་ ཇི་ སྲིད་ འདོད་ གྱི་ བར་ ཏུ་ བཞུས་ ཤིང་ བསྐྱབས་
 4 པས་། བཙོན་ འགྲམ་ དང་ མཐུན་ པ་ གཉིས་ ཡས་ གྱི་ ཇེས་ སུ་ མཐུན་ པའི་ དངོས་ གྲུབ་ དེས་ པར་ འཇུར་ རོ། གཅིག་
 5 གིས་ གྱང་ འཇིག་ རྟེན་ གསུམ་ བསྐྱར་ རུས་ པར་ རྒྱུད་ ཡས་ གསུངས་ སོ། ། རོན་ ཡོད་ གྲུབ་ པ་ འདི་ ཡང་ དས་ ཚོག་
 6 གསུམ་ གྱི་ རྒྱལ་ སོ་ ཡས་ བཤེགས་ མེད་ པའི་ དངོས་ གྲུབ་ ཏུ་ འཇུར་ ཉེ། ཡིད་ ལ་ འདོད་ པའི་ རྣམ་ པ་ ཉིད། ཅེས་
 7 སོ། ། རོན་ ཏུ་ བསྟེན་ པ་ ལ་ སོགས་ པའི་ ཚོ་ ག་ དང་ གུལ་ ཡང་། མངས་ རྒྱས་ དང་། གུང་ རྒྱབ་ སེམས་ དཔའ་ ཐམས་
 8 ཅད་ ལ་ དམིགས་ པ་ ཅོས་ གུས་ རས་། སེམས་ གྲིས་ སྲགས་ བཞུས་ པར་ གྲོལོ།
 9

10 §32. 【悉地】(Siddhi)

11 [① 7r3-, ② 5v2-, ③ 7r3-, ④ 5r1-, Ed.=p.13 l.10-]

12 atra ca yena tenāpi vidhinā¹ manīṣitena² vā mantrāḥ³ sādhyamānāḥ⁴ sidhyanti. tad
 13 yathā atraivoktaṃ vivekavijane⁵ sthāne saṃganikāyaparivarjite⁶ sattvān⁷ anutāpina
 14 vināpi⁸ pūjayā⁹ vināpi¹⁰ paṭena vināpi snānādisamudācāreṇa vinipatitenāpi¹¹ sād-

1 vidhinā] ①③④Ed.; vidhuna ②

2 manīṣitena] ①③④Ed.; manīṣitena ②

3 mantrāḥ] ②③④Ed.; mantrāḥ ①

4 sādhyamānāḥ] ①③④Ed.; nādhyamātāḥ ②

5 vivekavijane] ③; vivaktavijane ①④; vivevijane ②; viviktavijane Ed.

6 saṅganikāyaparivarjite] Ed.; saṅganikāparivarjitena ①②③④; saṅganikāyaparivarjite A

7 sattvān] ①③④Ed.; n ②

8 vināpi] ①③④Ed.; pi ②

9 pūjayā] ①②③④Ed.; pūjā ANa

10 vināpi] ①③④Ed.; vijñānāpi ②

11 vinipatitenāpi] ②③④Ed.; vinipatitenāpi ①

1 རྣམས་ གྲིས་] D; རྣམས་ གྱི་ P 4 དང་ མཐུན་] D; དང་ འཇུན་ P 4 ཇེས་ སུ་ མཐུན་] D; ཇེས་ སུ་ འཇུན་ P 5 གསུམ་ བསྐྱར་] D; གསུམ་ བསྐྱངས་ P 5 གསུངས་ སོ་] D; དགོངས་ སོ་ P

- 1 hyam avāśyaṃ¹ sidhyaṭīti punar uktaṃ dve cātyadbhute². yathā yathā mantrāḥ sād-
2 hyante tathā tathā anurūpā bhavanti. yena ca vidhinā³ yojyante⁴ tenaiva sidhyan-
3 tīti⁵ punar apy⁶ uktam.
- 4 bodhicittaṃ dṛḍhaṃ⁷ yasya niḥśaṅkā⁸ ca matir bhavet⁹/
5 vicikitsā¹⁰ na¹¹ kartavyā tasyedaṃ sidhyati dhruvam // <verse 5>
- 6 iti¹². tasmād vīryam utpādyā vicikitsāṃ¹³ vihāya sādhayitavyam avāśyaṃ¹⁴ sid-
7 hyati¹⁵. atra ca siddhyarthinā¹⁶ samayarakṣaṇe¹⁷ dṛḍhatarayatnavatā¹⁸ bhāvyaṃ.
8 tanmūlatvāt sarvasiddhīnāṃ¹⁹ sa ca samayaḥ²⁰. na saddharmaḥ pratikṣeptavyaḥ²¹,
9 na guruṣv avamanyānā kāryā, na madyapānaṃ kāryaṃ, na mañcaśayyā²² kāryā,
10 na vajrākārā bhakṣaṇīyā, na laṅghanīyā ity evamādir avāśyaṃ tantre²³ jñātavayaḥ.

1 avāśyaṃ] ②Ed.; avasyaṃ ①③④
2 cātyadbhute] ①③④Ed.; cātratyadbhute ②
3 vidhinā] ②Ed.; vinā ①③④A
4 yojyante] ①②③④Ed.; yojante ANa
5 sidhyantīti] ③④Ed.; sidhyantīti ①; sidhyaṭīti ②
6 apy] ①③④Ed.; om. ②
7 dṛḍhaṃ] ③Ed.; dṛḍha ①②④ANa
8 niḥśaṅkā] Ed.; nisamgā ①③④; vissamgā ②
9 matir bhavet] Ed.; matī bhavet ①; mati bhavet ②③④; matir atibhavet A
10 vicikitsā] ②③④Ed.; vicīkitsā ①
11 na] ①Ed.; naiva ②③④
12 iti] ②③④Ed.; itī ①
13 vicikitsāṃ] ②③④Ed.; vicīkitsāṃ ①
14 avāśyaṃ] ③Ed.; avasyaṃ ①②④
15 sidhyati] ②③④Ed.; sidhyanti ①
16 siddhyarthinā] ②Ed.; siddhyarthenā ①③④ANa
17 samayarakṣaṇe] ②③④Ed.; samayaḥ ①
18 dṛḍhatara°] ①③④Ed.; dṛḍhatene° ②
19 sarvasiddhīnāṃ] ①②③④; sarvasiddhīnāṃ ca Ed.
20 samayaḥ] Ed.; samayā ①; samayo ②③④
21 pratikṣeptavyaḥ] ①②③④Ed.; pratijñaptavya ANa
22 mañcaśayyā] Ed.; mañcakaśayyāṃ ①③④; mañcakasavyāṃ ②
23 tantre] ①③④Ed.; om. ②

1 vistarabhayāt tu¹ na likhyate². snātumicchātā ca trisamayajāpināryācalahṛdayenā-
 2 moghacaṇḍenaiva³ vajramudrāyuktena sarvamṛttikādīsnnāniyadravyābhimantraṇaduṣṭot-
 3 sārāṇasīmābandhādikaṃ⁴ kāryam. tenaiva sarvavighnāḥ praśāmyanti.

4 [TibA; D169r1-, P208r6-]

5 འདི ཡང་ རྒྱགས་ རེ་ དག་ དང་ ཚོ་ ག་ གང་ དང་ གང་ ཡིན་ པ་ རེ་ དང་ རེ་ ལ་ མཁས་ པས་ བསྐྱབས་ ན་ འགྲུབ་ པ་
 6 ཡིན་ རོ། ། འདི་ ཉིད་ གྲང་ གསུངས་ པ་ རི་ འདི་ ལྟ་ ལྟེ། ལྟེ། མོའི་ འགྲུལ་ འཇུག་ གིས་ རབ་ ཏུ་ དབེན་ པའི་ གནས་ ལུ་
 7 ཚོགས་ པ་ འདུས་ པ་ ཡོངས་ ལུ་ སྤངས་ ཤིང་ ལེན་ ལ་ རྗེས་ ལུ་ བཤེ་ བ་ རྣམས་ རི། མཚོད་ པ་ དང་ བུལ་ ཞིང་
 8 བང་ ཀ་ མེད་ ལ་ ལྷས་ ལ་ སོགས་ པ་ དང་ མི་ ལྷན་ པའི་ ཀུན་ ཏུ་ ལྷོད་ པ་ ལ་ སོགས་ པས་ ལུགས་ གྲང་ བསྐྱབ་ བུ་
 9 ཅི་ རས་ གྲང་ འགྲུབ་ པར་ འཇུར་ རོ། ། ཡང་ གསུངས་ པ། ཡ་ མཚན་ པ་ རི་ གཉིས་ ཡིན་ ཏེ། ཇི་ ལྟར་ ཇི་ ལྟར་ རྒྱགས་
 10 བསྐྱབ་ པར་ ལྷར་ བ་ རེ་ ལྟ་ རེ་ ལྟར་ རྗེས་ ལུ་ མཐུན་ པར་ འཇུར་ རོ། ལྷོར་ བ་ གང་ གིས་ ལྷུབ་ པར་ ལྷེད་ པ་ རེ་ ཉིད་
 11 ཀྱིས་ འགྲུབ་ པར་ འཇུར་ རོ་ ཞེས་ སོ། ། གཞན་ ཡང་ གསུངས་ པ།

12 བྱང་ ལྷུབ་ ལེན་ རི་ བརྟན་ པ་ གང་། ལྷོ་ རི་ ཚགས་ པ་ མེད་ ལྷུར་ པ། །

13 བེ་ ཚོམ་ རས་ ཡང་ བུ་ བ་ མིན། དེས་ ལྷུབ་ འདི་ ན་ ཏུག་ པར་ གནས། ། <verse 5>

14 ཞེས་ བུ་ བའོ། དེའི་ ལྷིར་ ན་ བརྟེན་ འགྲུས་ བསྐྱེད་ ལ་ སོམ་ ཉི་ རྣམ་ པར་ སྤངས་ པས་ བསྐྱབ་ པར་ བུ་ ལྟེ། དེས་ པར་
 15 འགྲུབ་ པར་ འཇུར་ རོ། འདི་ ལ་ ཡང་ ལྷུབ་ པ་ རོན་ ཏུ་ གཉེར་ བ་ རྣམས་ ཀྱིས་ དམ་ ཚོག་ བསྐྱང་ བ་ ལ་ ཤིན་ ཏུ་ འབད་
 16 པར་ བུ་ ལྟེ། ལྷུལ་ བ་ དང་ ལྷན་ པ་ རྣམས་ ཀྱི་ དེོས་ ལྷུབ་ བམས་ ཚད་ རི་ དེའི་ ཕ་ བ་ ལས་ ཡིན་ པའི་ ལྷིར་ རོ། དམ་
 17 ཚོག་ རེ་ ཡང་ དམ་ པའི་ ཚོས་ སྤང་ བར་ མི་ ལྷའོ། ལྷ་ མ་ ལ་ བརྟེས་ པར་ མི་ ལྷའོ། ལྷོས་ པར་ འཇུར་ བ་ བཏུར་ བར་

1 vistarabhayāt tu] ②④Ed.; vistarabhayā tu ①; vistarabhayārte ③Na
 2 likhyate] ①③④Ed.; vilikhyate ②
 3 °āryācalahṛdayenāmoghacaṇḍenaiva] ①③④Ed.; °āryānacahṛdayatāmoghacaṇḍinaiva ②
 4 °snāniyadravyābhimantraṇaduṣṭotsārāṇasīmābandhādikaṃ] Ed.; °snāniyadravyāb-
 himantraḍuṣṭotsārāṇasīmābandhādikaṃ ①③④Na; °snānipradravvyābhimantraṇaduṣṭot-
 saraṇasīmābandhādi ②

5 བསྐྱབས་ ན། D; བསྐྱབས་ ན་ P 9 འཇུར་ རོ། D; འཇུར་ རོ་ ཞེས་ སོ་ P 13 འདི་ ན། D; འདི་ ན་ P 14 དེའི་ ལྷིར་
 ན། D; དེའི་ ལྷིར་ P

1 མི་བྱོལོ། ཉལ་མི་ལ་ཉལ་བར་མི་བྱོལོ། རྫོགས་རིགས་བཟའ་བར་མི་བྱོལོ། ཞིང་འཁོང་བར་ཡང་མི་བྱོལོ། ཞེས་བྱ།
 2 བ་ལ་སོགས་པ་རྣམས་ནི་ཅི་ནས་ཀྱང་རྒྱུད་ལས་ཤེས་པར་བྱ། རྣམས་ལས་འཛིགས་པའི་ཕྱིར་མ་གྲིས་སོ།།
 3 ལྷུས་བྱེད་པར་འདོད་པ་ཡིན་ན་ཡང་དམ་ཚིག་གསུངས་ལས་གསུངས་པའི་འཕགས་པ་མི་གཡོ་བའི་དོན་ཡོད་
 4 པའི་ལྷིང་པོ་རྫོགས་ལཱ་གཏུ་པོ་ཉོད་དང་ལྷན་པས་འདག་ཚལ་ལ་སོགས་པའི་ལྷུས་ཀྱི་རྣམས་ལེན་པ་དང་
 5 ལྷགས་ཀྱིས་ཀྱང་གདུག་པ་ཚར་བཅད་པ་དང་མཚམས་གཅད་པ་ལ་སོགས་པ་རྣམས་བྱ་རྟེ། དེ་དག་ཉོད་ལོ་
 6 རས་བར་ཚད་ལ་སོགས་པ་ཐམས་ཅད་རབ་ཏུ་ཞི་བར་འཇུག་རོ།།

D169v

7 [TibB; D65v4-, P83v3-]

8 འདིར་ཡང་གང་དང་གང་གི་ཚོགས་ཡིད་ཀྱིས་འདོད་པས་ལྷགས་པ་རྣམས་ལྷུབ་པ་དང་ལྷན་པས་དངོས་གྲུབ་ཏུ་
 9 འཇུག་རོ།། ཇི་ལྟར་འདིར་གསུངས་པ་དབེན་ཞིང་སྤྱོད་མོ་མེད་པའི་གནས་སུ་སྤྱོད་པ་ཡོངས་སུ་སྤངས་ནས་སེམས་
 10 ཅན་རྣམས་ལ་གཞོད་པ་མ་ཡིན་པས་མཚོད་པ་མེད་པ་དང་། ལྷན་མེད་པ་དང་ལྷུས་མ་བྱས་པ་ལ་སོགས་པ་
 11 ཚོགས་པའི་ཚོགས་མ་ཚར་བ་ཡང་དེས་པར་བརྟུན་པས་པས་དངོས་གྲུབ་ཏུ་འཇུག་རོ།། ཡང་གསུངས་ཏེ། འདིར་ཡང་
 12 ཤིན་ཏུ་ངོ་མཚར་བ་གཉིས་ཏེ། ལྷགས་རྣམས་ཀྱིས་ཇི་ལྟར་ཇི་ལྟར་བརྟུན་པའི་མཐའ་ལ་དེ་ལྟར་དེ་ལྟར་རྗེས་
 13 སུ་མཐུན་པར་འཇུག་རོ།། ཡང་གང་དང་གང་གི་ཚོགས་སྤྱོད་པའི་མཐའ་ལ་དེའི་མཐའ་བཞིན་ཏུ་དངོས་གྲུབ་ཏུ་
 14 འཇུག་རོ།། ལྷུར་ཡང་གསུངས་པ།

15 གང་གིས་བྱང་ཚུབ་སེམས་བརྟན་ཞིང་། རྟོག་པ་མེད་པའི་སྤོང་ལོས་ལྷུར།
 16 བེ་ཚོམ་མེད་པས་དེ་བཞིན་སྤྱོད་། དེ་འདིར་དངོས་གྲུབ་དེས་པར་འཇུག། <verse 5>

17 ཞེས་སོ།། དེའི་ཕྱིར་བཙོན་འགྲུས་བསྐྱེད་ནས་བེ་ཚོམ་། མེད་པར་བརྟུན་པས་པས་དེས་པར་དངོས་གྲུབ་ཏུ་འཇུག་
 18 རོ།། འདི་ཡང་དངོས་གྲུབ་ཀྱི་དོན་ཏུ་དམ་ཚིག་མཚོགས་ཏུ་བརྟན་པར་འབད་པས་བསྐྱེད་པར་འཇུག་བས་དེ

D66r

1 ཉལ་མི་ ། D; ཉལ་གི་ P 1 རྫོགས་རིགས་ ། D; རྫོགས་རྣམ་པ་ P 2 མ་གྲིས་སོ་ ། D; མ་++སོ་ P 5 གཅད་
 པ་ལ་སོགས་པ་ ། D; བཅད་པ་ལ་སུགས་པ་ P 8 གང་དང་གང་ ། D; གང་གང་ P 8 ལྷགས་པ་རྣམས་ ། D; ལྷགས་
 རྣམས་ P 8 དང་ལྷན་པས་ ། D; དང་ལྷན་པས་ P 11 ཚར་བ་ཡང་ ། D; ཚར་ཡང་ P 15 རྟོག་པ་ ། D; རྟོགས་པ་
 P 17 དེའི་ཕྱིར་ ། D; དེའི་ཕྱིར་ P 17 བསྐྱེད་ནས་ ། D; བསྐྱེད་ནས་ P 18 འདི་ཡང་ ། D; འདིར་ཡང་ P 18 དམ་ཚིག་
 མཚོགས་ཏུ་ ། D; དམ་ཚིག་ཏུ་ P

1 དངོས་ ལྷུ་ ཐམས་ ཅད་ གྱི་ ལྷ་ བར་ འགྱུར་ རོ། དམ་ ཚེག་ དེ་ ཡང་ དམ་ པའི་ ཚོས་ ལྷིར་ སྲར་ བར་ མི་ བྱ་ བ་ དང་། ལྷ་
 2 ས་ ལ་ སྲུད་ པར་ མི་ བྱའོ། ཚང་ བདུང་ བར་ མི་ བྱའོ། ལྷི་ ལ་ ཉལ་ བར་ མི་ བྱའོ། རོ་ རྗེའི་ རྣམ་ པ་ ལྷ་ བྱ་ བཟའ་ བར་
 3 མི་ བྱ་ ཞིང་ འགོད་ པར་ མི་ བྱའོ ཞེས་ བྱ་ བ་ ལ་ སོགས་ པ་ རྗེ་ དེས་ པར་ ལྷུད་ ལས་ ཤེས་ པར་ བྱ་ ལྷེ། མངས་ པའི་
 4 འཛིགས་ པས་ འདྲིར་ མ་ གྲིས་ སོ། ལྷུས་ བྱེད་ པར་ འདོད་ རྣ་ ཡང་ དམ་ ཚེག་ གསུམ་ བརྒྱས་ པའི་ འཕགས་ པ་ མི་
 5 གཡོ་ བའི་ ལྷིང་ སོ་ རོན་ ཡོད་ གཏུམ་ སོས་ དེ་ བཞིན་ དུ་ རོ་ རྗེའི་ བྱག་ རྒྱ་ དང་ ལྷན་ པས་ ས་ ལ་ སོགས་ པར་ ལྷུས་ བྱས་
 6 པའི་ རྗེས་ ཐམས་ ཅད་ ལ་ མཛོན་ པར་ བསྐྱགས་ ཏེ། གདུག་ པ་ ཅན་ ཐམས་ ཅད་ བསྐྱར་ རས་། མཚོམས་ ལ་ སོགས་ པ་
 7 བཅད་ པར་ བྱས་ པའི་ མཐར་ བལེགས་ ཐམས་ ཅད་ རབ་ དུ་ ཞི་ བར་ འགྱུར་ རོ་ ཞེས་ སོ།།

8

9 §33. 【奥書】 (Colophon)

10 [① 7v3-, ② 5v8-, ③ 7v2-, ④ 5r8-, Ed.=p.14 l.9-]

11 iti¹ trisamayārājasya sādhanam samāptam. kṛtir iyam paṇḍitakumudākaramatipādānām².

12 [TibA; D169v1-, P208v8-]

13 དམ་ ཚེག་ གསུམ་ གྱི་ རྒྱལ་ པའི་ ལྷུའ་ ཐམས་ རྗོགས་ སོ།། བརྗེ་ ཏ་ ཚེན་ སོ་ གྱ་ ལྷ་ ད་ འགྱུར་ གནས་ ལྷོ་ ལྷོས་ གྱི་
 14 ཞལ་ ལྷ་ རས་ མཛོད་ པའོ། བརྗེ་ ཏ་ ལ་ ལྷ་ གྱ་ ཡུ་ ག་ རའི་ ཞལ་ ལྷ་ རས་ པ་ ཚབ་ གྱི་ ལྷུད་ གྱི་ དགོ་ ལྷོར་ ལྷུའ་ གྲིམས་
 15 རྒྱལ་ མཚོན་ གྲིས་ བསྐྱར་ བའོ།།

16 [TibB; D66r4-, P84r3-]

17 དམ་ ཚེག་ གསུམ་ གྱི་ རྒྱལ་ པའི་ ལྷུའ་ ཐམས་ རྗོགས་ སོ།། བརྗེ་ ཏ་ ཚེན་ སོ་ གྱ་ ལྷ་ ཏ་ འགྱུར་ བའི་ ལྷོ་ ལྷོས་ ཞབས་
 18 གྲིས་ མཛོད་ པ་ རྗོགས་ སོ།།

¹ praśāmyanti. iti] Ed.; praśāmyantīti ①③④; praśāmyatīti ②
² paṇḍitakumudākaramatipādānām] ②Ed.; paṇḍitakumudākarapādānām ①③④A

4 དམ་ ཚེག་ གསུམ་ བརྒྱས་ པའི་] D; དམ་ ཚེག་ གསུམ་ པ་ བརྒྱས་ པས་ P 5 རོ་ རྗེའི་ བྱག་ རྒྱ་] D; རོ་ རྗེའི་ བྱག་ P 5 ལ་
 སོགས་ པར་] D; ལ་ སོགས་ པའི་ P 6 གདུག་ པ་ ཅན་] D; གདུག་ པ་ P 7 བལེགས་ ཐམས་ ཅད་] D; བལེགས་ P
 13 ལྷོ་ ལྷོས་] D; ལྷོ་ ལྷོས་ P 18 མཛོད་ པ་ རྗོགས་ སོ་] D; མཛོད་ པའོ་ P

4-3. TRS 和訳

§27. 【誦呪】 (Chanting *hr̥daya*)

次に [行者は] 一切の仏・菩薩の加持を受けるために次の印を結びつつ、以前に述べた百字 [心呪] を憶念すべし。あるいは五字 [心呪] を [憶念すべし]。両手を互いの背面で合わせて指が上に向いた状態に結びつつ²⁴、両頭指と両小指を鎖²⁵の形で、針の [形にした] 中指と無名指の中間部分において兩大指を等しく上に向けて保つべし²⁶。[これが] 百字 [心呪] の印である。また五字 [心呪] の印は半球状の合掌を作り、両頭指によって大指の先端を押すべし。また残り [の指] は同様に針の形である。[五字心呪の] マントラは、

一切の仏・菩薩たちに帰命する。アーハ、勇者よ、フーン、キャン。

〈mantra 26〉²⁷

§28. 【魔の消除】 (Removal of *māra*)

次に [行者は] すべての印の集まりから生じた普輝頂 [印] あるいは法輪 [印] を結ぶべし。[指の間隔を] 広げて等しく伸ばした両手で、両無名指は手の中央部において爪で爪を押して、大指の先端をもって [無名指の先端に] 置くべし。両小指は針の形で先端をつけて、同様に両中指も等しく爪の先を [つけて]、普輝頂 [印] がある。

同じように (= 普輝頂印と同じ形にした後に) 両頭指を近づけて、円の形をもって爪で爪に触れるべし。[これが] 法輪 [印] である。順序通りにこれら2つのマントラ²⁸がある。

アーハ、マン、ハン。〈mantra 27〉

オーン、轟け、寄せ集めよ、[法] 輪で [煩惱を] 裁断せよ、

持金剛女よ、フーン。〈mantra 28〉²⁹

これら2つ [の印] を交互に結んで、マントラを直ちに発音し、立ってあるいは坐って唱えるべし。魔などによって征服されなくなり、さらにその悉地が実現する³⁰。

§29. 【速疾なる悉地のために】 (*Śighrasiddhyartha*)

次に [行者は] 速疾な悉地のために法源の印を結び、そのマントラを憶念すべし。左手で [金剛] 拳を握り、頭指・小指・大指を上方に広げるべし³¹。[これが] 法源の印である。マントラは、

一切の仏・菩薩たちに帰命する。アーハ。あらゆる方法で、一切を守護する女よ、

スヴァーハー。〈mantra 29〉

そして、自らの [本尊の] 印³² と共にマントラを直ちに発音し、三昧耶を示すべし。また自らの [本尊の] 印は適切に知るべきものである。

次に [行者は] 一切の仏・菩薩に対する恭敬に依拠した念誦を反芻しつつ、望むがままのマントラを、速くもなく遅くもなく、正しくない考えを排除し、マントラの文字に専念した心で³³、疲れが出ない限り念誦すべし。

§30 【諸勤行】 (Activities)

§30-1. 【読経】 (Chanting *sūtra*)

次に [行者は] 起坐したら『聖華嚴經入法界品』 (*Gaṇḍavyūha*)³⁴ などの諸經典と如来心呪³⁵ を速やかに憶念しつつ、唱えるべし。供養して、最後に恭敬しつつ享受すべし。

§30-2. 【食事】 (At meals)

そして、食べている間に、次のマントラによって食べ物に対して八遍念誦した最上の団子³⁶ を作って、一切の仏・菩薩たちに差し出して、[行者は] 中程度の量³⁷ を食べるべきである。この場合のマントラは、

一切の仏・菩薩たちに帰命する。オーン、力を授けよ、輝かしい鬘を持つ女よ、スヴァーハー。〈mantra 30〉³⁸

聖なる不動尊のために速やかに効果靦面にして擥猛なる心呪を食事の残りに対して唱え、残余の団子が [不動尊に] 与えられるべきである。その時、[残余の団子と] 結びついた彼 (= 不動尊) は [行者に] 安樂であり悉地であるものを授ける³⁹。

そして食事を終えた [行者] は、懺悔などをなしつつ、まさに正法に依拠した

状態に住するべし。

§30-3 【午後】 (At afternoon)

もし余力があれば、午後にもその守護などの〔勤行〕区分⁴⁰と供養などの〔勤行区分〕の全てを行ってから誦すべし⁴¹。〔余力が〕ない場合は、午前〔布置〕なしたものと同一である撥遣されずにその場に留まっている守護尊⁴²を始めとするものだけを固く信解し⁴³、マントラを伴う⁴⁴聖なる不動尊の金剛印によって障礙者たちを除去し⁴⁵、五字〔心呪印〕などの内のどれか1つの印を結ぶことによって守護をなし⁴⁶、供養と賛歌などを実行し⁴⁷、以前の通りに念誦をなすべし⁴⁸。

そして、夕方に〔金剛〕墻や〔金剛〕網などを解いて、光環〔の印〕によって甲冑を作るべし。それぞれの指を合わせて内縛を作り、中指を針の形で伸ばすべし。両頭指をその第一関節⁴⁹に置くべし。そして両親指は側面に〔置くべし〕。〔これが〕光環の印である。マントラは、

三世を体現する如来に帰命する。偉大なる三昧耶の道に到達した女よ、平等性よ、平等性よ、あらゆる方法で衆生を保護する女よ、法界の内部に完全に到達した女よ、スヴァーハー。〈mantra 31〉

§30-4 【夜】 (At night)

そして正法の読誦などによって初夜と後夜の覚寤⁵⁰がなされるべきである。中夜に寝台ではない寢床⁵¹において必ず一切の仏・菩薩たちに全身で礼拝しながら眠るべきである。そして嘆願をなせ。「一切の仏・菩薩たちは私を加持せよ。そして最勝なる無上悉地を授けるものたちとなれかし。そしてすべての災難を鎮めよ」と。

§30-5 【徴候の顕現】 (Manifestation of *nimitta*)

そして、これと同じ儀軌は毎日〔行う〕、満月の時に十万遍の念誦⁵²が〔なされる〕までか、あるいは諸々の悉地の徴候が顕現するまで⁵³。それから満月などの日⁵⁴において、食べ物や断つ断食を行い、あるいは布薩の律儀を守り、新芽の坐あるいはクシャ草の坐にある者は、仏塔・パタ・容器・写本・図像などの中のいずれかの面前で、華を撒いた壇⁵⁵を作り、守護や供養などの〔勤行〕区分⁵⁶を行いつつ、以前のように法源印を結び、それ (= 法源印) のマントラを憶念すべし⁵⁷。次に自ら

の本尊の印を結び、そのマントラを七遍または八遍唱え、三昧耶を示すべし。

§31. 【大いなる徴候】 (*Mahānimitta*)

次に、一切の仏・菩薩たちに恭敬し、[法] 輪と金剛杵⁵⁸などを握り、普賢 [菩薩] や如来の身体⁵⁹などの浄化を欲し、自らの望んだ悉地における心呪を唱え、一切の仏・菩薩への恭敬に依拠した念誦を反芻し、一切の仏・菩薩に関わる福德と智慧の [二] 資糧の称讃を繰り返す心をもって、黄昏時⁶⁰から始めて夜半または日の出の時まで唱えるべきである、そうすればその [法] 輪などは必ず輝く。

そして [法輪が] 輝いている間に、仏が出現する時のように虚空から大いなる徴候である華の雨と太鼓の響きと妙なる音と如来の善哉の声などがあり、さらに仏国土の振動などの超常現象が起こる。そして一切の持明者の部族たちが正しく降臨する。[行者は] 彼らによって灌頂される。[すると] 一切世間界において仏・菩薩を尊崇する [行] 者は五神通を有し、一切の仏・菩薩が称讃する菩薩行を行じる持明者の王となる。無数の持明者の女性に囲まれ快楽に耽っているとしても、彼の身体から [五神通が] 出離することはない。そして、まさに彼の身体で順番に [二] 資糧を積集するから、彼は一切の菩薩地に登っていく、現等覚するまで。

そして、その他の仏・菩薩の説示した如意宝や賢瓶などの一切の世間・出世間の悉地は、この儀軌あるいは共通または特殊な章に見られる儀軌によってタントラを見るならば、疑いなく成就する。確実に成就する、すなわち、この方便を持つ者たちにとっての成就法儀軌であるが、方便を持たない者たちでもできる限り成就法をなすべきである。「私は述べられた通りにできない」と落胆すべきではない。最終的に、もう一度自身の守護をなし、結界や供養などを観想し、そのマントラを誦し、望むがままに唱えるべし、あるいは実践すべし。努力に応じて、また行為に応じて必ず成就する。一度 [の儀軌の実践] でも、三界を守護することができる、タントラの言葉に説かれている。そしてこれが効果靦面な悉地であり、底哩三昧耶王であり、妨げなき悉地であり、望ましい儀軌である、と。衆生済度の心を持つ者は一切の仏・菩薩への依拠だけをなし、プールヴァセーヴァーなどの儀礼を欠いてマントラの実行をするのである。

§32. 【悉地】 (Siddhi)

儀軌および [成就したいという] 願望によって、それによって成就するであろう諸々のマントラがまさに今、完成する。すなわち、いま語られたものは僧団から離れた寂靜で孤独な場所において衆生たちが懺悔によることもなく、供養によることもなく、バタによることもなく、沐浴などの行為によることもなく、失敗しても成就すべき者は必ず成就する、という意図でさらに素晴らしい2つのことが述べられた。諸々のマントラが完遂されるように、そのように適合する結果がある。そして、[諸々のマントラは] 儀軌によって結び付くが故に、それ故に [諸々のマントラは] 完成する、という意図でさらにまた説かれた。

菩提心が堅固である者、心に恐れがない者、

そのような者は必ずこれを成就する。疑ってはならない。〈verse 5〉

と。それ故に精進 [する心] が起こり、疑いが除かれ、成就されるべきものが必ず成就する。そして今、悉地を求める者は三昧耶を保つ際には堅固な意思を持つ者となるべきである。それ (= 悉地) の根本を有する者であるが故に、彼はあらゆる悉地の三昧耶である。正しい法を誹謗してはならない、師たちを輕蔑してはならない、飲酒をしてはならない、寝台で眠ってはならない、金剛乗に関するもの⁶¹を破壊してはならない、[三昧耶を] 遠越してはならない、というこのようなことなどをタントラにおいて必ず知るべきである⁶²。しかし、冗長を恐れるが故に[ここでは全部を] 書かない。そして、沐浴することを望む者⁶³は、①三三昧耶をつぶやくことで、②聖なる不動尊の心呪によって、③効果觀面にして擲猛なる金剛印を結ぶことによって、[①によって] 一切の塑像などの沐浴・[②によって] 持物の加持・[③によって] 悪いものを取り除くための結界などをなすべし。それによって一切の障礙を鎮める。

§33. 【奥書】 (Colophon)

以上、底哩三昧耶王の成就法が完了した。これはパンディタであるクムダーカラマティパーダの作である。

註

- 1 本稿参考文献の横山 2021 と横山 2022c が該当する。
- 2 この『秘密法』は、古来『大日経』息障品の疏と『念誦法』に基づく偽経とされる。詳細は資延 2000 pp. 43-44 参照。しかし、マントラなどにおいて『念誦法』とは明らかな相違点が見受けられるため適宜比較に使用する。
- 3 横山 2022a p. 50 註 27 では、儀軌類に見出せるものを「26」としたが誤記である。この場を借りてお詫びの上「25」に訂正する。
- 4 他文献の中であれば近い形が見出せる。詳細は本稿「4-2. TRS 校訂テキスト」における Skt 校訂テキストの〈mantra27〉〈mantra28〉の脚註（下段）を参照。
- 5 この他にも日本ではアビラウンケン、アブラオンケンなどと読まれてきた。この真言の日本における音の転訛については佐々木 2021 p. 112 が詳しい。
- 6 倉西 2019 pp. 388-389 によれば、およそ金剛界系の真言は頭に om が、胎藏界系の真言は頭に namaḥ samantabuddhānām が付くとされる。
- 7 ā bi ra における母音記号 i は、ba の上ではなく ra の上にあるようにも見える。これは Ph 写本の特徴として母音記号が少し後ろ側に付くためであるが、ā ba ri と読む可能性も残る。
- 8 強いて言えば、-buddhānām 部分の長・短母音の相違が挙げられるが、これは同系経軌におけるマントラの定型句であるためここでは考慮しない。
- 9 ここではアビラウンキャンを説く漢訳文献の一例として挙げた。しかし、前半の句は後述する TRT と同じ namaḥ sarvabuddhabodhisattvānām が想定できるため、今後の研究の中では TRT と比較する方が適切である。
- 10 この他、河口 2012 p. 138 では ā vi となっており、河口写本は NS と同じ読みを支持しているようである。今後、使用する版本・写本を増やして異読の整理を進めたい。
- 11 酒井 1983 p. 239. II. 2-3. 「次にこの経があまり整理されていない事、即ち説明が素朴な点や大日経中に同趣旨の文が相当長く用いられている事などから大日経より先に成立していたのではなからうかと考えられる」。さらなる詳細は酒井 1983 pp. 238-241 参照。
- 12 D218v6, P203r8. このマントラの説示を含む TRT ch. 10 の冒頭部の場面は酒井 1953 pp. 84-85 に和訳がある。
- 13 強いて言えば、-sattvānām 部分の長・短母音の相違が挙げられるが、これは同系経

軌におけるマントラの定型句であるためここでは考慮しない。

- 14 このような前半の句だけ異なるマントラの用例は他にも見られる。例えば不動讃の前半の句も *namaḥ sarvabuddhabodhisattvānām* であるが、不空訳『一字頂輪王儀軌』には不動讃とほぼ同様の形でありながら前半の句に *namaḥ samantabuddhabodhisattvānām om* を想定する形のもが説かれている。詳細は横山 2022b p. 32 参照。
- 15 基本的に異読は確認できないが、Skt 写本④では *hūṃ khaṃ* 部分の上に不鮮明ながらキャンセル記号のようなものが見える。また、Bhattacharyya の校訂本 (Ed.) では *hūṃ* の部分が *huṃ* と校訂されている。Bhattacharyya が使用した Skt 諸写本は現状確認できないが、Bhattacharyya は全体を通してマントラの *hūṃ* に当たる箇所を *huṃ* と校訂していることから異読ではない可能性が高い。
- 16 当地は『大日経』の翻訳者および真言八祖 (伝持の八祖) のひとりとして知られる善無畏三蔵 Śubhakarasiṃha の出身地 (烏荼国) とされる。
- 17 昭和 55 年 12 月から昭和 56 年 1 月にかけて行われた嵯峨美術大学と種智院大学の合同調査によって発見されたものである。調査までの経緯および真言の拓本画像などは、佐和 1968、頼富 2007 pp. 24-25、頼富 2020 pp. 15-16 および pp. 49-52 参照。
- 18 D218v7-219r1, P203v2: 'gro ba drug 'grol bdag nyid yi ge lnga| thugs rje'i bdag nyid kun gyi yab gcig pu||
- 19 ただし、五字 [心呪] という呼称は文献全体を通じて同マントラを指している訳ではない。ch. 2 では *namaḥ sarvabuddhabodhisattvānām ma hā pā la hūṃ* というマントラを指して五字 [心呪] と呼んでおり、各章は強い独立性を有している。
- 20 ちなみに『大日経』において同マントラは「金剛字句 (*rdo rje'i yi ge*) 」と呼ばれており、「五字」とは呼ばれない。
- 21 Matsunaga 1978 p. 90 l. 17.
- 22 Rinpoche 1992 p. 95 l. 11-12. なお脚註によれば Tib D では最初の文字は *ā* ではなく *a* である。
- 23 高橋 2010 p. 575 が指摘する MMK と『妙吉祥八字軌』に見られる *om āḥ vī (dhī?) ra hūṃ kha ca raḥ* という八字からなる真言である。真言の用途は異なるが、その類似性からしておそらく同系統から派生したものと考えられる。
- 24 なお、『念誦法』(10a22-23) では百字心呪を誦する際に根本印が用いられており、

ここで説かれる百字心呪の印は説かれない。

- 25 Ed. では「刀」を意味する *śankulā-* の読みをとっている。しかし、この箇所は異読も多く、いずれの Skt 写本の読みにも疑問が残る。そこでチベット語を確認すると、TibA では *lu gu rgyud*、TibB では *lcags srog* となっており、いずれも「鎖」を意味する語である。そのため、ここでは元の Skt が *śrīṅkhalā-* であった可能性が高いと考えて校訂した。
- 26 ここでは中指と無名指の第二関節あるいは基節あたりを指し、そこに大指を上向きに置くものと考えられるが詳細は不明である。
- 27 詳細は本稿「3. 胎藏大日如来の真言に類似する五字心呪について」を参照されたい。
- 28 「2つのマントラ」という文言から *mantra27* と *mantra28* に分けたが、正確にどこで区切れるのかは不明である。あるいは、どちらか一方のマントラが抜け落ちてしまった可能性も残る。
- 29 普輝頂と法輪という2つのマントラは TRT および『念誦法』『秘密法』の中に見出せない。ただし、他の文献には類似したマントラが確認できる。詳細については本稿の校訂テキスト該当部分を参照。
- 30 この部分は Tib の読みが若干異なっている。特に TibB は「魔などの者たちを輝きによって征服しつつ、諸々の悉地を実現することになる」となっており、普輝頂印という呼称によく合致する点で注目すべき内容といえる。
- 31 この印が法源印である理由として、大指を下側にして頭指・小指・大指の先端を線で結べば法源を意味する逆三角形となることが考えられる。
- 32 自らの印の詳細については不明であるが、§30-5には「自らの本尊の印 *svadevatāmudrā-*」という語があり、同様に印を結んだ後に三昧耶を示すことが説かれる。このことから、「自らの印」とは「自らの本尊の印」を意味する可能性が考えられる。
- 33 この部分をどのように読むべきかは定かではないが、TibA の *sngags kyi yi ge rig pa'i sems kyi* を参考に訳した。文中の *-varjitaṃ* と *-cittaṃ* は、*-varjitaḥ* と *-cittaḥ* に校訂し、主語として「行者」にかけるべきかもしれない。どのように読むべきかは今後の研究課題としたい。
- 34 『華嚴経』の末尾に収録される「入法界品」の単独經典を指す。なお、ネパールでは九法宝典 (*navagrantha*) のひとつとして重視される。

- 35 横山 2022a p. 41 で指摘した通り、TRT の類似箇所では經典の誦誦だけが示され、如来心呪は別の箇所です示される。TRS が作られるまでの間に何らかの理由によって經典と如来心呪は一揃いで読まれるようになったと考えられる。
- 36 この「最上の団子 (agrapinḍa-)」と後述する「残余の団子 (utsrṣṭapinḍa-)」は、横山 2022a でも言及した通り *Bodhicittotpādasamādānavidhi* と *Ādikarmapradīpa* においても食事の際に揃って説示される (cf. 白崙 1990 p.88, 高橋 1992 p. 582.)。両文献とは様々な類似点が確認できるため、今後の研究の中で関係性を解明したい。
- 37 ここでの中程度の量とは、多過ぎも少な過ぎもしない食事の分量という意味に加え、後に出てくる「残余の団子」を作るために食事の一部を残すことを指示していると考えられる。
- 38 いわゆる十力明と呼ばれる真言であり、本稿の校訂テキスト脚註で挙げた以外にも様々な文献に説かれる。
- 39 不動明王が行者の残食を喫するという内容は後代の様々な文献の中にも説かれており、日本でも不動明王十九相の第十三番目の特徴として広く知られている。また本経である TRT の第十三章末尾には不動盲目 (mi g-yo ba long ba) という尊格に対して心呪を一遍唱えた残余の団子を与えれば 8 つの悉地を獲得するという旨の内容が説かれている。『大日経』の先驅經典とされる TRT は、不動と呼ばれる尊格が説かれる最古層の文献のひとつであろう。ただし、例えば同じく最古層に位置すると考えられる『不空罽索神變真言経』では、不動尊が漢訳のみに説示され、Skt および Tib には説示されないという問題が見られる。野口 1998 p. 96 (表 1. 漢訳「廣大解脱マンドラ」尊名一覧表) では 81 番に不動使者とあるが、pp. 102-103 の「表 4. 梵・漢諸尊対応表」に 81 番の不動使者は無い。同 p. 90 によれば、Skt と Tib による同マンドラは、尊数が漢訳の同マンドラの約 4 分の 1 であり、漢訳に見られた『初会金剛頂経』の要素も見出されない。不動尊を説く最古層の文献については近日中に稿を改めて問題を整理したい。
- 40 parikara- (対応 Tib は yan lag と訳) には従者などの意味もあるが、§22 では直前の結界までの勤行項目を指して kṛtarakṣāparikara- とし、その後に供養等の全ての勤行項目を終えた §30-5 では kṛtarakṣāpūjādirikara- となる。そのためここでは勤行の区分を指すと考えるが、具体的な範囲は不明である。内容的には §14 以降が守護、

§23 以降が供養の勤行区分を指す可能性が考えられる。

- 41 ここで誦す内容は、§27 の如来心呪または五字心呪と考えられる。
- 42 §14 で五箇所 に 布置した守護尊を指すと考えられる。なお、当文献に具体的な布置の場所と尊名は記述されていない。
- 43 午前に布置した尊格たちを午後にもそのまま用いることで、尊格の布置に関する勤行を省略するものと考えられる。
- 44 マントラを誦しながら印を結ぶ意味と考えられる。
- 45 その内容も使用する印も合致するため、§7 に相当すると考えられる。
- 46 文脈から「守護などの勤行」の略式であり、既に布置されている守護尊らに守護を行わせるものと考えられる。五字心呪印の結び方は §27 で説かれている。
- 47 文脈から「供養などの勤行」の略式と考えられる。当文献で *stuti-* の語があるのは §26-1 のみである。そこで可能性として §25 供養・§26-1 讃嘆・§26-2 廻向という一連の勤行を指すのであれば、次の §27 の誦呪につながり、文脈にも沿う。なお Tib も供養と賛歌を並列複合語として読んでいるが、属格限定複合語として「供養の賛歌など」と読み、賛歌などを用いて供養に関する勤行の略式とした可能性も考えられる。
- 48 念誦については、その行者の能力の有無に限らず同じ念誦を行うものと考えられる。
- 49 直訳すれば「第三の節」となるが、ここでは第一関節とした。
- 50 TRT の類似箇所では、浅い睡眠状態で経行などを行ういわゆる覚寤瑜伽が説かれる。ただし、TRS のこの箇所では単に「眠らずに起きていること」を指す可能性が高いと考えられる。詳細は横山 2022a pp. 44-45 参照。
- 51 この内容からは八齋戒のひとつの不坐臥高広大床戒が想起される。TRT 第十六章に説かれる三昧耶戒 (D233v4-) も同様の内容を説いており、それが TRS に反映されたものと考えられる。
- 52 §3 には一切のマントラたち (*sarvamantrāṅām*) の念誦を十万遍することが説かれており、ここではその一切のマントラたちの念誦が完了する満月の日を指すと考えられる。しかしながら、一切のマントラたちがどのような内容であるのかは不明である。仮に TRT に出てくる全てのマントラを念誦することであり、それが 1 時間かかるとすると、念誦を常時継続したとしても十万遍には 4167 日、すなわち約 11 年 4 ヶ月かかってしまう。そのため、おそらくは TRT の中心的なマントラを指して一切のマ

ントラたちと呼んでいる可能性があると考えている。あるいは §2 から §4 によれば、根本明呪は一千遍、百字心呪は八千遍の念誦が定められており、十万遍はそれらを含めた各念誦の合計数を指す可能性も考えられる。

- 53 この箇所には多くの問題が残されており、どのように読むべきか定かではない。なお TibA では「この儀軌をまた毎日なして、十万遍誦すべし。満月の時までであり、悉地の徴候が顕現するまでである」、TibB では「同様にこの儀軌を毎日、満月の時まで十万遍誦すべきである。または悉地の徴候が顕現するまでである」と読める。このことから、TibA では満月の日と悉地の徴候が顕現する日は同じ日になると解釈でき、TibB では満月の日と悉地の徴候が顕現する日は同じ日になるとは限らないと解釈できる。
- 54 原語は *tithi-* であり、太陰日を指す。すなわち新月から満月まで、および満月から新月までをそれぞれ 15 等分した内の 1 つの期間である。
- 55 この原語は *maṅḍalaka-* であり、崇拜対象の供養・礼拝のために使用される壇を指す。Tanemura 2004 pp. 220-221 (note 19) 参照。
- 56 守護および供養の勤行区分については §30-3 参照。
- 57 法源の印とマントラについては §29 で説かれている。
- 58 ここでは「法輪と金剛杵」と解釈したが、TibA では *'khor lo'am rdo rje* ([法] 輪あるいは金剛杵)、TibB では *'khor lo dang rdo rje* ([法] 輪と金剛杵) となっている。
- 59 TibB では *de bzhin gshegs pa kun du bzang po'i sku* となっており、「普賢如来の身」と読める。詳細は不明であるが法身普賢を指している可能性が考えられる。
- 60 *saṃdhyārāga* に対応する Tib は *nyi ma nub* (日没) であり、*rāga* は赤い夕暮れの空の色を指す語であると考えて黄昏時と訳した。
- 61 *vajrākāra-* には「金剛杵の形」という訳も考えられるが、ここでは語頭に *vajra-* を付けることで仏教独自のもの全般を指していると考えて「金剛乗に関するもの」と訳した。すなわち、仏像や法具、マンドラなどを指すと思われる。
- 62 若干内容が異なっているが、TSS の中では同様の内容がより詳しく以下のように説かれている。

na saddharmaḥ pratikṣepyo na santyajyaḥ kadācana /
sambuddhā bodhisattvās ca na kāryā teṣv anādṛtiḥ // 2-12
gurau vidheyā nāvajñā na hantavyās ca dehinaḥ /

na svayaṃ mantramudrās ca kāryā nāśyās ca naiva tāḥ // 2-13
mātsaryaṃ madyapānaṃ ca krañīyaṃ na sarvathā /
vajrākārā na laṅghyās ca bhañjaniyās ca naiva te // 2-14
na mañcaśayanaṃ kāryaṃ na mudrādiṣu gauravam /
na bāladharmatā kāryā gurau vā devatāsu vā // 2-15
abhicāro na kartavyaḥ suśīlānaparādhayoḥ /
na kāryaṃ karañīyaṃ vā nānumodyaṃ ca kilviṣaṃ // 2-16

- 63 この少し前に「沐浴などの行為によることもなく…成就すべき者は必ず成就する」という一文があるため、沐浴は成就するために不可欠な要素ではないと考える。それにも関わらずここで沐浴について言及する意図は現状不明である。今後の研究の中で明らかにしていきたい。

参考文献

〈一次文献〉

Ādikarmapradīpa: Ādikarmapradīpa of Anupamavajra. (cf. 高橋 1993)

Guhyasamāja: Guhyasamājantra. (cf. Matsunaga 1978)

Hevajra: Hevajrantra. (cf. Snellgrove 1959)

Kṛṣṇayamāri: Kṛṣṇayamāritantra. (cf. Rinpoche 1992)

MMK: *Mañjuśrīmūlakalpa.* (cf. Śāstri 1992)

SM: *Sādhanaṃālā / Sādhanasamuccaya.* Ed.=Bhattacharyya 1925, Tokyo University

Library ID 1683・1684・1685・1686 = Matsunami New no. 451・452・453・454, in the University of Tokyo Library (東京大学総合図書館所蔵).

<http://utlslkms.ioc.u-tokyo.ac.jp> (Accessed November 10, 2019).

[Toh. 3143-3304, Ota. 3964-4126] (=sgrub thabs brgya rtsa),

[Toh. 3400-3644, Ota. 4221-4466] (=sgrub thabs rgya mtsho).

Śikṣāsamuccaya: Śikṣāsamuccaya of Śāntideva. (cf. Bendall 1902)

TRS: 『底哩三昧耶王成就法』. *Trisamayarājasādhana* of Kumudākaramati (=SM

vol. I, no.1). Ed.=Bhattacharyya 1925, Tokyo University Library ID

1683・1684・1685・1686 = Matsunami New no. 451=①・452=②・453=③・454=

④, 東京大学総合図書館所蔵.

『底哩三昧耶王成就法』校訂テキストと和訳 (3) (横山)

<http://utlslkms.ioc.u-tokyo.ac.jp> (Accessed November 10, 2019).

TibA= [Toh. 3144, Ota. 3965], TibB= [Toh.3400, Ota. 4221].

TRT: *Trisamayārājatantra*. (『底哩三昧耶王經』). [Toh. 502, Ota. 134, C no. 137, N no. 451, S no. 467, Ph no. 491].

TSS: *Trisamayārāsādhana* of Ratnākara Gupta (?) (=SM vol. I, no. 2).

[Toh. 3145, Ota. 3966] (=Vajradharasamgītistuti),

[Toh. 3146 Ota. 3967] (=Stutyānuśaṃsā),

[Toh. 3147, Ota. 3968] (=Trisamayāsādhana),

[Toh. 3401, Ota. 4222].

『一字頂輪王經』: 不空訳『菩提場所説一字頂輪王經』五卷. 大正蔵 no. 950.

『一字頂輪王儀軌』: 不空訳『一字頂輪王念誦儀軌』一卷. 大正蔵 no. 954A.

『初会金剛頂經』: *Sarvathāgatātattvasaṃgraha*. 不空訳『金剛頂一切如来真實撰大乘現証大教王經』大正蔵 no. 865.

『大日經』: *Vairocanābhisambodhi*. [Toh. 494, Ota. 126, C no. 129, N no. 446, S no. 454, Ph no. 488], 『大毘盧遮那成仏神變加持經』七卷. 大正蔵 no. 848.

『念誦法』: 不空訳『底哩三昧耶不動尊威怒王使者念誦法』一卷. 大正蔵 no. 1200.

『秘密法』: 不空訳『底哩三昧耶不動尊聖者念誦秘密法』三卷. 大正蔵 no. 1201.

『妙吉祥八字軌』: 菩提仙訳『大聖妙吉祥菩薩秘密八字陀羅尼修行曼荼羅次第儀軌法』一卷. 大正蔵 no. 1184.

〈二次文献〉

Bendall, Cecil. 1902. *Śikṣāsamuccaya: A compendium of Buddhist teaching Compiled by Śāntideva Chiefly from Earlier Mahāyāna-sūtras*. Bibliotheca Buddhica 1, St. Petersburg. Commissionnaires de l'Académie impériale des sciences.

Bhattacharyya, Benoytosh (ed.). 1925. *Sādhana-mālā vol. I*, Central Library, Baroda.

Heinemann, Robert. 1985. 『漢梵梵漢ダラニ用語用句辞典』名著普及会.

Matsunaga, Yukei (松長有慶). 1978. *The Guhyasamājatantra, A New Critical Edition*, Toho Shuppan, Osaka.

Rinpoche and Dwivedi. 1992. *Kṛṣṇayāmāritantra* Rare Buddhist Text Srieis 9, Central Institute of Higher Tibetan Studies Sarnath, Varanasi.

- Snellgrove, David L. 1959. *The Hevajra Tantra, A Critical Study -Part II Sanskrit and Tibetan Texts-*, Oxford University Press, London.
- Śāstri, T. Gaṇapati (ed.). 1992 (Originally Published in 1920, Trivandrum). *Āryamañjuśrīmūlakalpa, Three Parts in one complete volume*, New Delhi.
- Tanemura, Ryugen (種村隆元). 2004. *Kuladatta's Kriyāsaṃgrahapañjikā* (Groningen Oriental Studies XIX), Egbert Forsten, Groningen.
- 麻生祥光 1999 「不動尊の研究」『高野山大学大学院紀要』第3号, pp. 1-18.
- 遠藤祐純 2010 『藏漢対照『大日経』と『広積』上』ノンブル社。
2011 『藏漢対照『大日経』と『広積』下』ノンブル社。
- 勝又俊教 1983 「大毘盧遮那神变加持经」『两部大经 上』pp. 1-225, 真言宗豊山派宗務所。
[監修] 1983 『大日経疏 上下』真言宗豊山派宗務所。
- 河口慧海 2012 『藏文和訳 大日経 (『河口慧海著作集 8』日高彪 校訂)』慧文社 (初版 1934 西藏経典出版所)。
- 北村太道 1980 『チベット文和訳 大日経略訳』文政堂。
2020a 『藏文和訳 大日経』起心書房。
2020b 『全訳 ブツダグヒヤ 大日経広積』起心書房。
- 倉西憲一(賢亮) 2019 「諸真言」『新編 真言宗諸経要集解説』pp. 387-433, 真言宗豊山派宗務所。
- 酒井真典(紫朗) 1953 「大勤勇三摩地について」『密教文化』24・25 合併号, pp. 83-95。
1973 『修訂 大日経の成立に関する研究』国書刊行会 (初版 1962 高野山遍照光院歴世全書刊行会)。
1983 「チベット訳『底哩三昧耶経』」『酒井真典著作集』第1巻, pp. 223-245, 法蔵館。
1987 『酒井真典著作集第2巻 大日経広積全訳』法蔵館。
- 佐々木大樹 2021 「民間信仰における胎藏大日五字真言」『智山学報』第70巻, pp. 111-138。
- 佐和隆研 1968 「インド ラトナギリの仏教遺蹟」『佛教藝術 Ars Buddhica』第67号, pp. 99-108。
- 白崙顕成 1990 「Jitāri の Bodhicittotpādasamādānavidhi 研究 (2)」『教育諸学研究論文集』第4巻, pp. 61-89。
- 資延恭敏 [編著] 2000 『秘密儀軌大系 I 不動明王』四季社。
- 高田良海 [校註] 2004 「底哩三昧耶経」『新国訳大蔵経 金剛頂経・理趣経他』pp. 335-384, 大蔵出版。

『底哩三昧耶王成就法』校訂テキストと和訳(3) (横山)

- 高橋尚夫 1992 「アーディカルマブラディーバ『初行のしるべ』-和訳」『興教大師八百五十年御遠忌記念論集 興教大師覚鑿研究』 pp. 551-589, 春秋社.
- 1993 「Ādikarmapradīpa 梵文校訂-東京大学写本による-」『インド学 密教学研究 下-宮坂有勝博士古稀記念論文集-』 pp. 129-156, 法蔵館.
- 2002 「年回忌塔婆について-種子と真言を中心として-」『追善供養(教化センター参考資料⑤)』 pp. 151-208, 真言宗豊山派教化センター.
- 2010 「悉曇」『新仏教綱要 上巻』 pp. 482-595, 真言宗豊山派.
- 田久保周善 1967『真言陀羅尼蔵の解説 校訂増補再版』鹿野苑(初版1960 豊山教育財団).
- 田中公明 2000 「胎蔵大日八大菩薩と八大菩薩曼荼羅の成立と展開」『密教図像』第20号, pp. 1-15.
- 2020 「*Trisamayārajantraṭīkā* 初探-『大日経』『金剛頂経』からの引用を中心に-」『智山学報』第69輯 pp. (1-15).
- 智山伝法院 2010 『智山の真言-常用経典における真言の解説-』智山伝法院.
- 塚本賢曉 [訳] 1922 「国訳底哩三昧耶不動尊聖者念誦秘密法」『国訳密教経軌第四』 pp. 163-209, 国訳密教刊行会.
- 野口圭也 1998 「“Amoghapāśakalparāja”のマンダラー(1) いわゆる「広大解脫マンダラー」について-」『山崎泰廣教授古稀記念論文集 密教と諸文化の交流』永田文昌堂.
- 服部融泰 1931 『蔵文大日経』西藏経典出版所.
- 福田亮成 [校註] 1998 「大日経」『新国訳大蔵経 密教部1』大蔵出版社.
- 横山裕明 2020 「*Trisamayārasādhana* について -同じ題名を持つ2つの底哩三昧耶系成就法-」『佛教文化学会紀要』第29号, pp. 83-100.
- 2021 「『底哩三昧耶王成就法』校訂テキストと和訳(1)」『豊山学報』第64号, pp. (67-109).
- 2022a 「密教行者の日常勤行法則について -底哩三昧耶王系経軌を中心として-」『密教学研究』第54号, pp. 39-52.
- 2022b 「底哩三昧耶王系経軌に基づく「不動讃」梵文還元の再考」『豊山教学大会紀要』第50号, pp. 29-54.
- 2022c 「『底哩三昧耶王成就法』校訂テキストと和訳(2)」『豊山学報』第65号, pp. (93-136).
- 頼富本宏 2007 『大日如来の世界』春秋社.

2020『新装版『大日経』入門－慈悲のマンダラ世界』大法輪閣（初版2000大法輪閣）.

*本研究は JSPS 科研費 20K12807 の助成を受けたものです。